平成３０年度第１０回　地域連携推進機構運営会議　議事次第

日　時：平成３０年１１月２２日（木）　１３：３０～１５：３０
場　所：本部管理棟 ４階 第１会議室

【議題】

＜審議事項＞		資料番号
1	国立大学法人琉球大学，日本郵便株式会社，株式会社ゆうちょ銀行及び株式会社かんぽ生命保険との包括的連携に関する協定締結について	審議１
2	琉球大学地域貢献事業フェア２０１９（仮）の企画（案）について	審議２
3	地域連携推進機構が実施する公開講座の企画について	審議３
4	平成３１年度公開講座の実施について	審議４
5	平成３１年度公開授業の実施について	審議５
6	その他	
＜報告事項＞		
1	市民シンポジウム（第９９回琉大２１世紀フォーラム）「次世代育成の基盤整備に向けて～沖縄型 STEM 教育のイノベーション創出～」について	報告１
2	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金（ギャップ資金）について	報告２
3	各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について	報告３
4	その他	

※参考資料
- 地域連携推進機構運営会議 委員名簿（平成３０年１０月１２日時点）（参考資料１）
- 平成３０年度 第１０回 地域連携推進機構運営会議 座席表（参考資料２）

※今後の日程
- 第 11 回 … １２月２１日（金）　１３：３０～１５：３０　於：本部管理棟 ２階 第２会議室
- 第 12 回 … １月２５日（金）　１３：３０～１５：３０　於：本部管理棟 ２階 第２会議室
- 第 13 回 … ２月２２日（金）　１３：３０～１５：３０　於：本部管理棟 ２階 第２会議室
- 第 14 回 … ３月２２日（金）　１３：３０～１５：３０　於：本部管理棟 ４階 第１会議室

平成３０年度第８回 地域連携推進機構運営会議 議事要旨（案）

日　時: 平成３０年１０月１９日（金）　１４：３０～１５：３０
場　所: 本部管理棟 ２階 第２会議室
出席者: 須加原 一博（機構長），屋 宏典（副機構長 兼 産学官連携部門長），遠藤 光男（生涯学習推進部門長），小島 肇（地域連携企画室 特命准教授），島袋 亮道（地域連携企画室 特命准教授），畑中 寛（地域連携企画室 特命准教授），宮里 大八（地域連携企画室 特命准教授），新川 武（産学官連携部門 教授(併任)），瀬名波 出（産学官連携部門 教授(併任)），金城 徹（総合企画戦略部 地域連携推進課長）
欠席者: 背戸 博史（地域連携企画室長），玉城 理（産学官連携部門 准教授），柴田 聡史（生涯学習推進部門 准教授），下地 みさ子（産学官連携部門 特命准教授），空閑 睦子（生涯学習推進部門 特命准教授），新田 早苗（総合企画戦略部長）
陪席者: 下地 孝之（課長代理），大城 光雄（企画係長），赤嶺 雅哉（地域連携推進係長），與儀 あゆみ（産学連携推進係長），田頭 明子（地域連携推進係 主任），宮平 知佳子（地域連携推進係員）

※審議に先立ち，９月２１日開催の平成３０年度第７回運営会議の議事要旨案について確認があり，了承された。

＜審議事項＞
議長から，次の３つの事項について機構の今後の対応について審議を行う旨提案があり，各担当から説明の上，審議を行った。

1. 地域連携推進機構が実施する公開講座の企画について
宮里特命准教授及び島袋特命准教授から，資料（審議１）に基づき地域連携推進機構が実施する公開講座の企画について説明があった。
審議の結果，原案どおり了承された。

2. 地域連携推進機構の英語表記について
事務局から，資料（審議２）に基づき協定締結について説明があった。
審議の結果，地域連携推進機構の英語表記については，案２の「Organization for Regional Collaboration」とすることが決定され，その他の表記は原案どおり了承された。

3. 公開講座の講習料の免除について（要望書の提出）
遠藤部門長から，資料（審議３）に基づき公開講座の講習料の免除について説明があった。
審議の結果，原案どおり了承され，財務部に要望書を提出することとなった。

＜報告事項＞
議長から，次の３つの事項について機構の現状の認識と情報の共有を図るため，各担当から報告を行うよう発言があった。

1. 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する大学機能を達成するための措置の実施状況に関する監事監査」への対応について

事務局から，資料（報告１）に基づき臨時の監事による業務監査の実施及びその対応について報告があった。

2. 沖縄の産業まつりへの出展について

屋部門長から，資料（報告２）に基づき出展について報告があった。

3. 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について

各室・部門から，資料（報告３）に基づきそれぞれ報告があった。

＜その他＞

・ 宮里特命准教授から，国立大学協会九州地区支部連携事業としての市民向けシンポジウム・第９９回琉大２１世紀フォーラムの企画について，１２月中旬に沖縄県における STEM 教育をテーマにしたシンポジウムを計画し，登壇者との調整を行っている旨の報告があった。

平成３０年度第９回

地域連携推進機構運営会議（メール会議）　議事要旨

日　時：平成３０年１０月２６日（金）（メール送信日）～１０月３０日（火）（意見等期限日）

委　員：須加原 一博（議長（機構長）），屋 宏典（副機構長 兼 産学官連携部門長），背戸 博史（地域連携企画室長），遠藤 光男（生涯学習推進部門長），玉城 理（産学官連携部門 准教授），柴田 聡史（生涯学習推進部門 准教授），小島 肇（地域連携企画室 特命准教授），島袋 亮道（地域連携企画室 特命准教授），畑中 寛（地域連携企画室 特命准教授），宮里 大八（地域連携企画室 特命准教授），下地 みさ子（産学官連携部門 特命准教授），空閑 睦子（生涯学習推進部門 特命准教授），新川 武（産学官連携部門 教授(併任)），瀬名波 出（産学官連携部門 教授(併任)），新田 早苗（総合企画戦略部長），金城 徹（総合企画戦略部 地域連携推進課長）

＜審議事項＞

急を要する案件であることから，議長の提案により，次の事項についてメールにより審議を行った。

1. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する大学機能を達成するための実施状況について

審議の結果，原案どおり了承された。

国立大学法人琉球大学、日本郵便株式会社、株式会社ゆうちょ銀行及び株式会社かんぽ生命保険との包括的連携に関する協定書（案）

国立大学法人琉球大学（以下「甲」という。）と日本郵便株式会社沖縄支社、株式会社ゆうちょ銀行沖縄エリア本部、株式会社かんぽ生命保険沖縄エリア本部（以下「乙」という。）は、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　本協定は、甲及び乙が相互に緊密に連携することにより、それぞれが有する人的・物的資源を有効に活用して、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

（連携事項）

第２条　甲及び乙は、前条の目的を達成するため、連携して次に掲げる事項について、業務に支障のない範囲で、取り組むものとする。

(1) 教育・人材の育成に関すること

(2) 調査・研究に関すること

(3) 地域の医療・福祉に関すること

(4) 地域経済活性化に関すること

(5) 観光・文化の振興に関すること

(6) 国際交流の推進に関すること

(7) 女性の活躍推進に関すること

(8) その他

２　甲及び乙は、前項各号に掲げる事項を効果的に実施するため、必要に応じて協議を行うものとする。また、具体的な協力内容については、甲乙合意の上、決定する。

（協定内容の変更）

第３条　甲又は乙のいずれかが、本協定の内容の変更を申し出たときは、その都度協議の上、必要な変更を行うものとする。

（免責）

第４条　乙は、第２条第１項の規定による協力をした場合及び協力しなかった場合のいずれにおいても、その責任を負わないものとする。

（守秘義務）

第５条　甲及び乙は、第２条に定める連携事項等の検討及び実施により知り得た相手方の秘密情報を、相手方の事前の書面による承認を得ずに第三者に開示・漏えいしてはならない。

２　甲及び乙は、本協定が理由の如何を問わず終了した後も、前項に定める秘密保持の責務を負うものとする。

（有効期間）

第６条　本協定の有効期間は、締結日から翌年の３月３１日までとする。ただし、本協定の有効期間が満了する日の１か月前までに、甲又は乙が書面により特段の申し出を行わないときは、有効期間が満了する日の翌日から１年間本協定は更新され、その後も同様とする。

（協議）

第７条　本協定に定めのない事項又は本協定に定める事項に関し疑義等が生じた場合は、甲乙協議の上、決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲乙それぞれ署名の上、各自その１通を保有するものとする。

年　　月　　日

甲　沖縄県中頭郡西原町字千原１

国立大学法人琉球大学

学長　　大城　肇(署名)

乙　沖縄県那覇市東町２６－２９

日本郵便株式会社　沖縄支社

支社長　比嘉　明男(署名)

沖縄県那覇市東町２６－２９

株式会社ゆうちょ銀行　沖縄エリア本部

本部長　岡田　信夫(署名)

沖縄県那覇市壺川３－３－８

株式会社かんぽ生命保険　沖縄エリア本部

本部長　隅田　伸志(署名)

2018 年 11 月 6 日

地域貢献事業フェア（仮称）企画素案

地域連携推進機構 地域連携企画室

１．開催目的（基本理念）

本学のビジョン「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」の実現に向け、本学が取り組む教育・研究・診療の成果を広く地域社会へと開示するとともに、それを通じた地域社会とのコミュニケーションの場を創出することで、さまざまな次元における新たな地域貢献活動を創造する機会とする[1]。

２．基本方針

地域とともに豊かな未来社会をデザインするため、本学の地域貢献に関する諸活動（教育、研究、医療・診療）を地域と共有することで、地域に暮らす人々に、豊かな明るい未来をイメージしてもらえる場を創出する[2]。

「豊かな未来社会」のイメージを参加者に感じてもらい、大学と地域や市民との対話の機会とするために、以下の方針で取り組む。

① 一般市民が参加しやすい会場、地域貢献の内容を理解しやすい展示を基本とする。
② 地域貢献の展示方法については、ポスターのみを用いた単なる一方向の展示ではなく、参加者が「豊かな未来社会」を体験・体感できる、参加体験型の展示「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」[3]となるよう工夫する（各展示ブースを広く設定）。

３．ターゲット（検討中）

一般市民（ブース毎でターゲットが異なることもある）
※今後、参加人数の想定が必要、ターゲットの検討は最重要。

４．開催方法

地域連携推進機構が所掌する新事業とするが、全学における地域貢献活動を対象とする。

５．事業名（検討中）

① 琉球大学地域貢献博覧会 2019 ―豊かな未来社会のデザイン―
② 琉球大学地域貢献フェア 2019 ―大学の知的資源の地域への還元―
③ 地域貢献展 2019 ―大学の知的資源の地域への還元―
④ 琉球大学未来社会フェア 2019―大学の知と沖縄の可能性―

６．開催日時

2019 年 3 月 23 日（土曜日）10 時～16 時の予定

７．プログラム構成（検討中）

基調講演＋展示会（２部構成）

８．基調講演の講師（検討中）

大学の地域貢献に見識のある著名人（市民にアピール力のある人）
① 地域貢献の具体的かつ分かりやすい解説
② 琉球大学の地域貢献への評価コメント
現在、姜尚中氏（東京大学名誉教授）に打診中

９．会場

奥武山公園　沖縄県立武道館　アリーナ棟　（仮予約済）

３月２２日（金）午前９時～午後５時　　設営準備
３月２３日（土）午前９時～午後９時　　本番・片付け

１０．　運営体制（検討中）

地域連携推進機構地域連携企画室と２部門からなる「拡大企画室」が準備委員会となり、これに公募委員や総務課広報係等を加え実行委員会を組織する。準備委員会は地域貢献に積極的な取組（グループ）を先行的に選定・依頼する。

１１．　展示構成（検討中）

【琉球大学】

準備委員会による先行的な選定・依頼と併せて、全学に向け展示の公募を実施する。

【地域社会】

包括連携協定自治体・民間企業については強制参加とはせず、複数団体で１ブースを担当するなど参加の負担を軽減する。琉大ブランド開発企業等の出展も検討する。

１２．　事業の評価とＰＤＣＡ（検討中）

来場者アンケート（満足度）を実施。また、出展者にもアンケートを実施する。インセンティブ経費を確保できれば、参加者による投票等のコンペも実施することを検討。

１３．スケジュール

平成３０年	１１月上旬	基調講演講師の打診
		準備委員会（拡大企画室）の立ち上げ（11/5）
	１１月中旬	実行委員会の立ち上げ
		基調講演講師の決定
	１１月下旬	第９回地域連携推進機構運営会議（11/22）
		第２回地域連携推進会議の開催
		学内公募の実施
	１２月中旬	出展ブースの確定
	１２月下旬	各出展ブースとの調整・ポスター・チラシ等の作成
平成３１年	１月上旬	広報開始
	３月 23 日	地域貢献フェア（仮称）の開催

１４．事務的確認

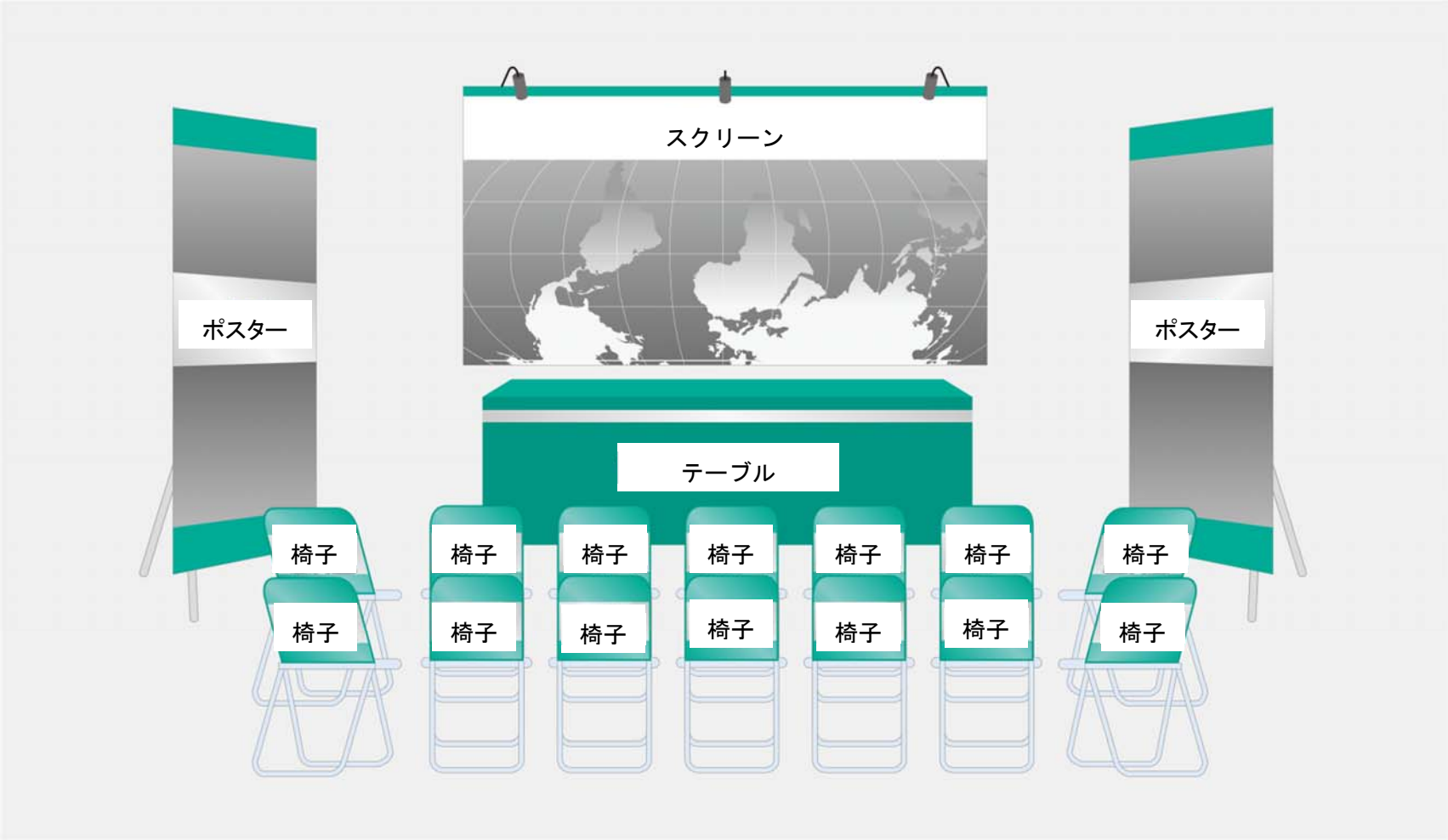
① 開場ブース設営・看板設置：イベント業者へ外注
② ポスター・チラシ・パンフレットの作成：印刷業者へ外注
③ 広報の強化（検討中）
・新聞・テレビ局・ラジオ局を通じた広報
・ポスター・チラシの配布（各ブース関係者、同総会、自治体・全国大学への郵送）
④ その他（集客の強化）（検討中）
・お土産など（琉大グッズの作成・無料配付、琉球大学カレーの限定試食（アンケートの実施）
・学生のサークルの紹介（中学生、高校生を対象）
・子ども向けの体験学習ブースの開設（小中学生対象）

以　上

---

1 「地域貢献大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する具体的方策等について（最終答申）」地域連携推進機構（平成 30 年 3 月 6 日）
2 前掲 1
3 「科学館（仮称）基本構想」高知市教育委員会（平成 23 年 4 月）

展示ブースのイメージ



科学フェスティバル／栃木県子ども総合科学館１

近大科学祭化学実験

科学フェスティバル／栃木県子ども総合科学館２

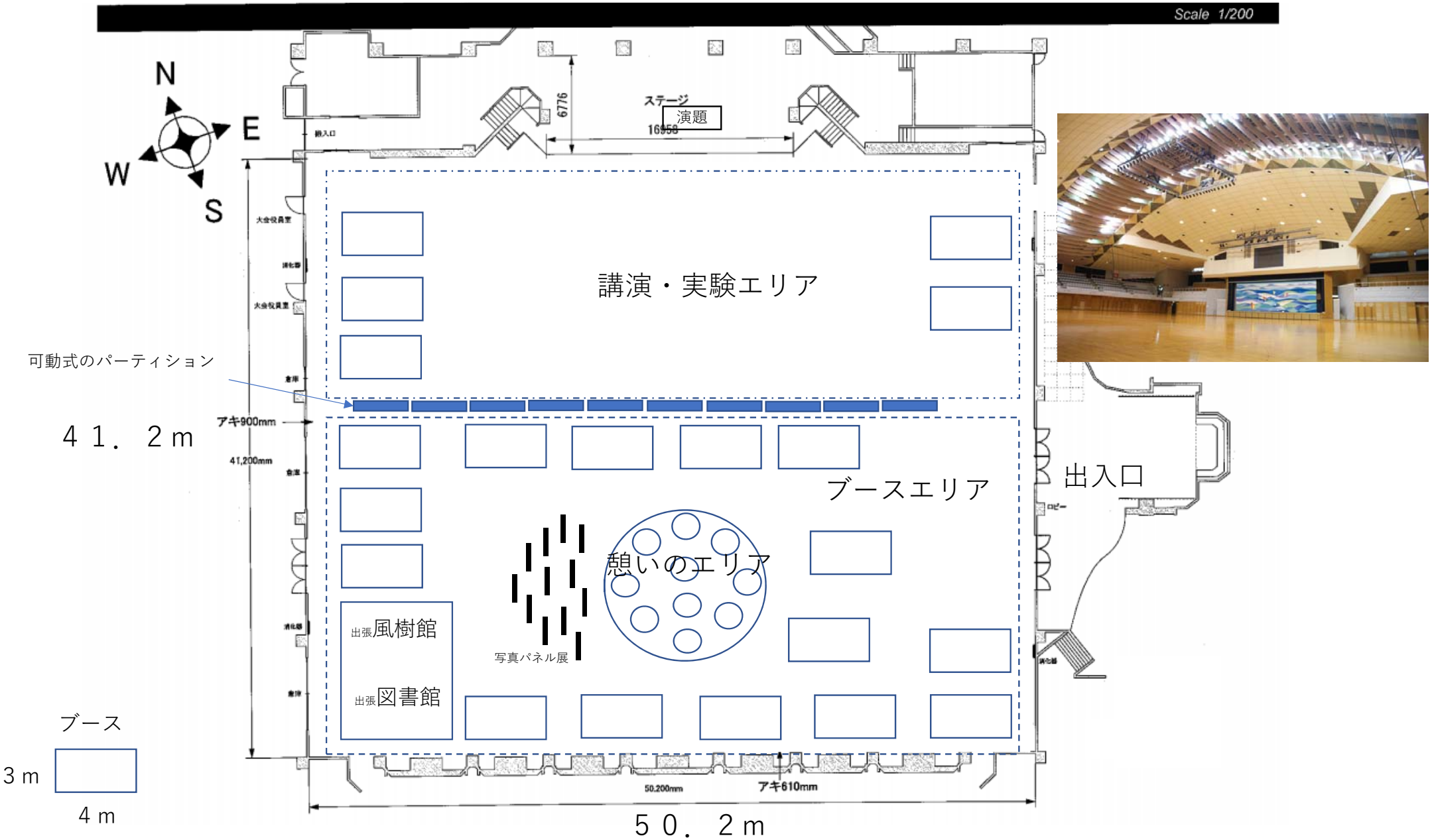
由利本荘市科学フェスティバル

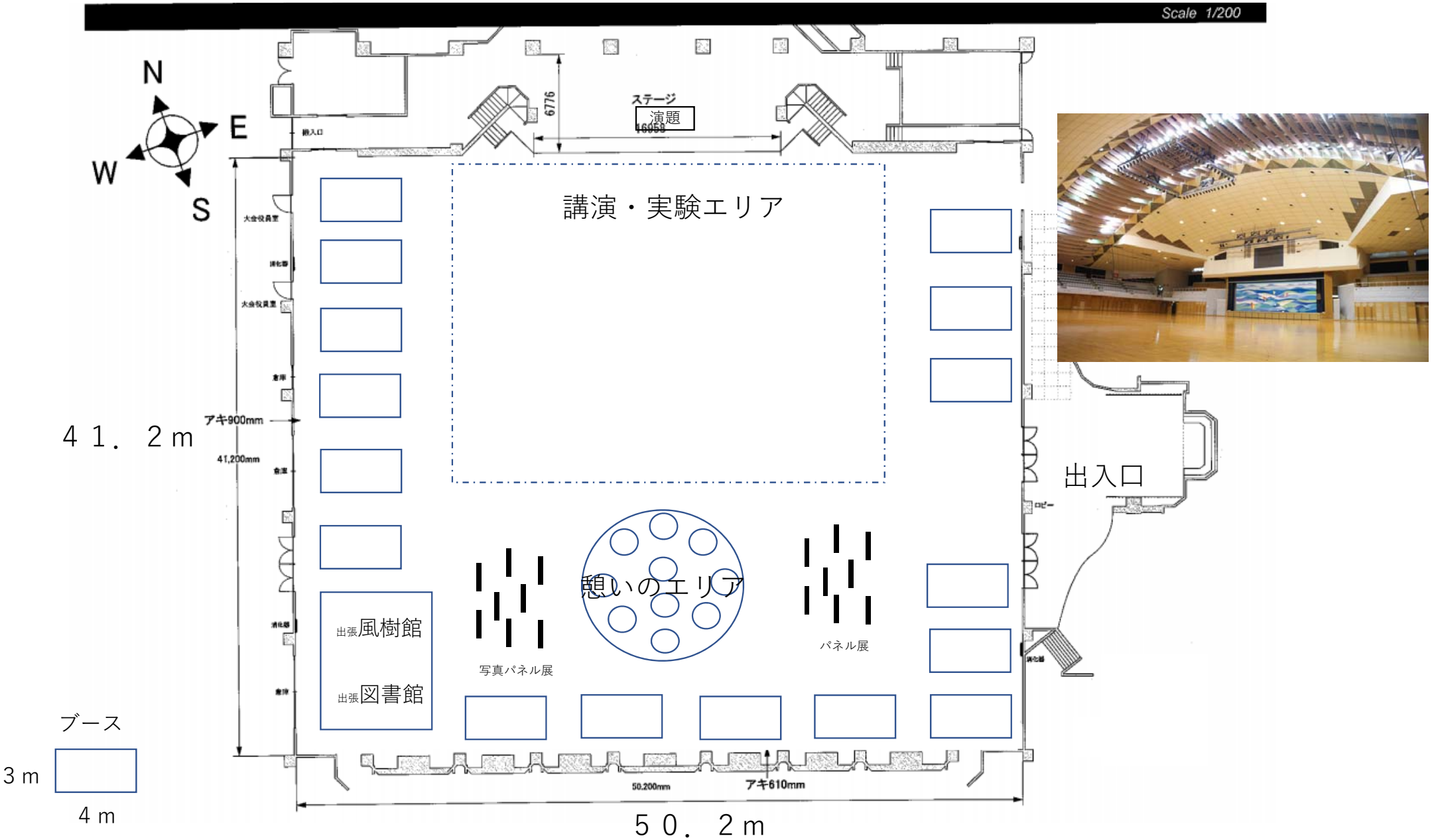
札幌市青少年科学館-北海道大学の実験ブース１

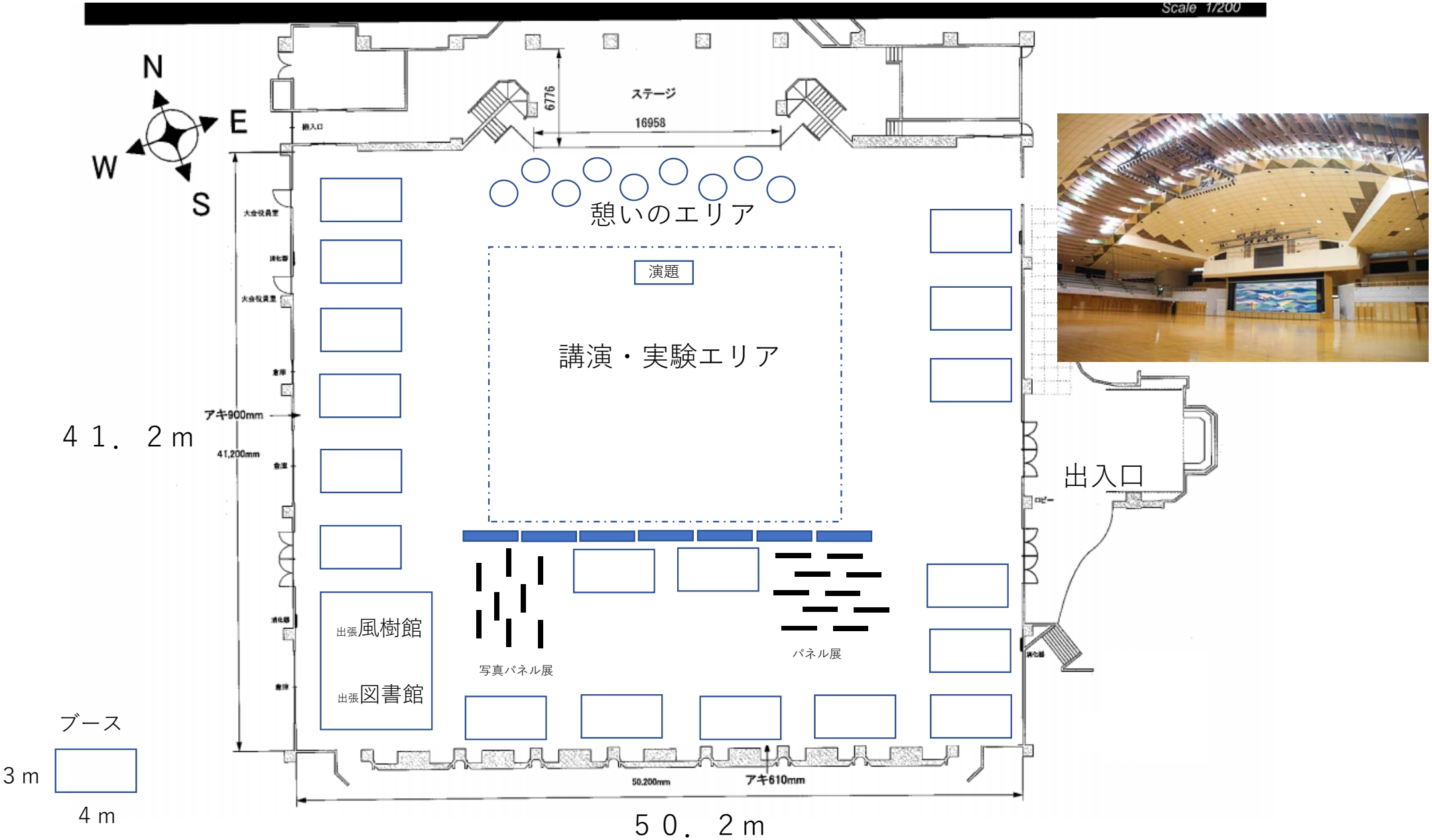
札幌市青少年科学館-北海道大学の実験ブース２

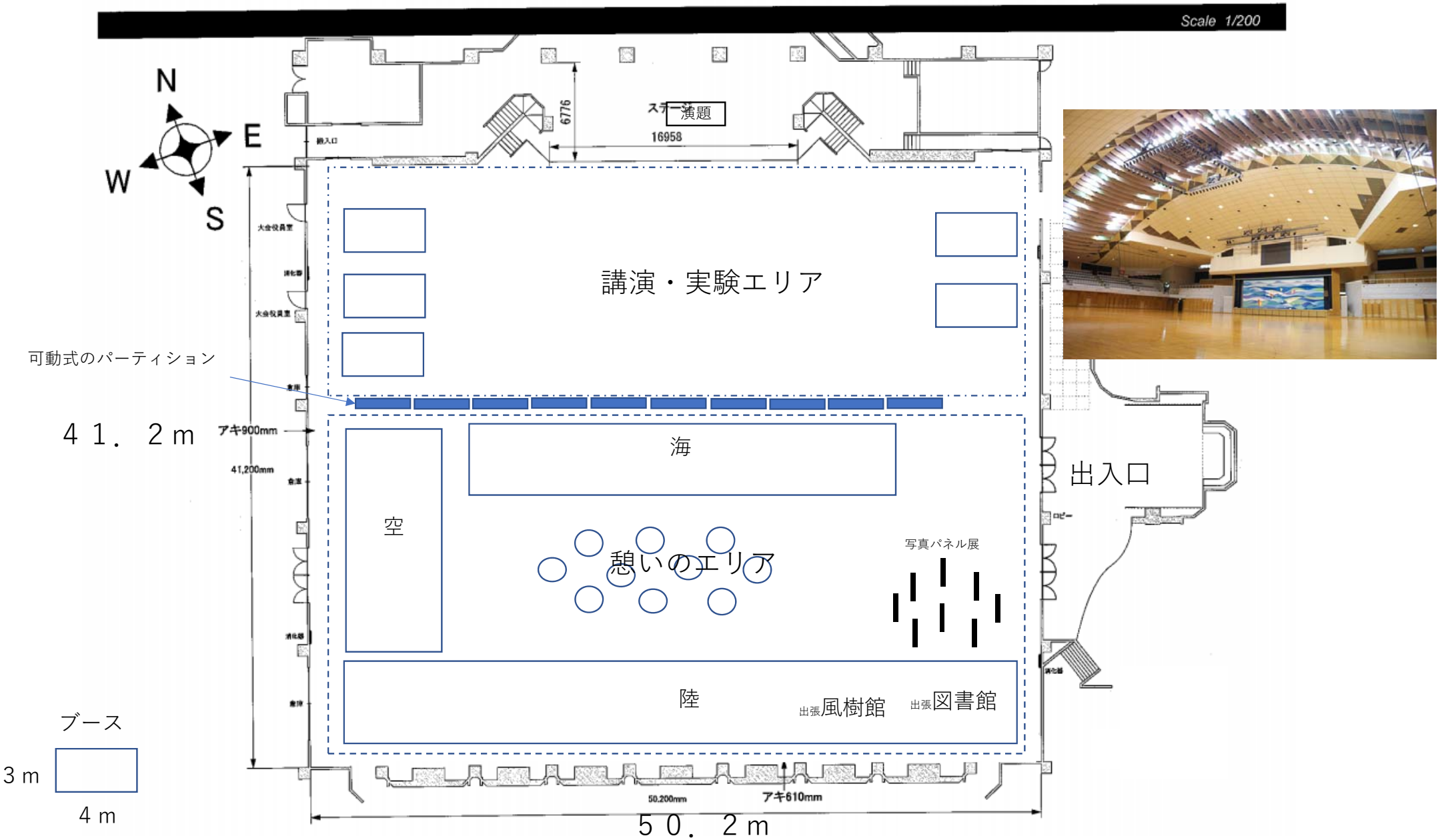
世界一行きたい科学広場 in 東海大学湘南キャンパス 2015

生物教育サポーターによるワークショップ


Scale 1/200
N
E
W
S
ステージ
演題
6776
16958
講演・実験エリア
可動式のパーティション
４１．２ｍ
アキ900mm
41,200mm
ブースエリア
出入口
憩いのエリア
写真パネル展
出張風樹館
出張図書館
ブース
３ｍ
４ｍ
50,200mm
アキ610mm
５０．２ｍ


Scale 1/200
N
E
W
S
ステージ
演題
6776
講演・実験エリア
出入口
４１．２ｍ
アキ900mm
41,200mm
憩いのエリア
出張風樹館
出張図書館
写真パネル展
パネル展
ブース
３ｍ
４ｍ
50,200mm
アキ610mm
５０．２ｍ


Scale 1/200
N
E
W
S
ステージ
6776
16958
憩いのエリア
演題
講演・実験エリア
出入口
４１．２ｍ
アキ900mm
41,200mm
出張風樹館
出張図書館
写真パネル展
パネル展
ブース
３ｍ
４ｍ
50,200mm
アキ610mm
５０．２ｍ


Scale 1/200
N
E
W
S
演題
16958
6776
講演・実験エリア
可動式のパーティション
４１．２ｍ
アキ900mm
41,200mm
海
空
憩いのエリア
写真パネル展
出入口
陸
出張風樹館
出張図書館
ブース
３ｍ
４ｍ
50,200mm
アキ610mm
５０．２ｍ

地域貢献フェア（仮称）に関する学長調整の概要について

〇日　時：平成３０年１１月６日（火）１６：３０～１７：３０

〇場　所：学長室

〇参加者：大城学長、須加原理事・副学長、背戸地域連携企画室長、畑中准教授、
新田部長、金城課長、大城係長

【地域貢献フェア（仮称）のプログラム等についてのご意見】

① 事業名に「地域貢献という」文言は入れなくても良いのでは、この中では、「④琉球大学未来社会フェアー２０１９ー大学の知と沖縄の可能性ー」が良いのでは（学長）

② 学長室に飾られている絵画もそうだが、学内には、すばらしい絵画があるので、美術館として展示することも良い。寄贈した先生方は、多くの方に見てもらいたいとの意向がある。（学長）

③ 図書館にも色々なものがある。風樹館の佐々木さんにも協力をいただき、イリオモテヤマネコの剥製などもある。（学長）

④ ロボット三線もある。（学長）

⑤ 琉大のゆるキャラを子ども達に書いてもらうことも良いのでは。（学長）
フェアのマスコットにすることも良いのでは。（新田部長）

⑥ ２年前に世界のウチナーンチュ大会をこの会場で実施した。その時のブースも参考にしてはどうか。（学長）

⑦ 子ども達にとっては、スタンプラリーや、クイズで景品をあげることも考えられる。（学長）

⑧ よろず相談所としてもブースを出しては。（学長）

⑨ 保健学科の学生に手伝ってもらっても良いのでは。（学長）
学生に関わってもらうということでは、背戸室長の知のふるさと納税の事業も出せるのでは。（学長）

⑩ 理学部の眞栄平教授や前野准教授なども子ども向けの科学実験なども行っている。（学長）

⑪ 教育学部の尾川先生なども、中学高校生向けの科学シンポジウムなども実施している。（新田部長）

⑫ クリニカルシュミレーションセンターの人形などをブースに出すのも良いのでは。（須加原理事）

⑬ 川本副学長の牛肉も残っていたら、試食できるのでは。（学長）

⑭ 医学部附属病院には、ペッパー君もあったので、それを会場の受付に置いては。（新田部長）

⑮ 来年の２月には、琉球大学アドバイザリー会議（顧問会議）がある。地域貢献フェアの話は、アドバイザリー会議でも言われてきたことである。今回、その会議の際にも、地域貢献フェア（仮称）をアピールすることができる機会となる。（学長）

（以上）

「地域貢献フェア 2019（仮称）」出展募集要項（案）

１．開催目的

本学のビジョン「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」の実現に向け、本学が取り組む教育・研究・診療の成果を広く地域社会へと開示するとともに、それを通じた地域社会とのコミュニケーションの場を創出することで、さまざまな次元における新たな地域貢献活動を創造する機会とする[1]。

２．基本方針

地域とともに豊かな未来社会をデザインするため、本学の地域貢献に関する諸活動（教育、研究、医療・診療）を地域と共有することで、地域に暮らす人々に、豊かな明るい未来をイメージしてもらえる場を創出する[2]。

「豊かな未来社会」のイメージを参加者に感じてもらい、大学と地域や市民との対話の機会とするために、以下の方針で取り組む。

① 一般市民が参加しやすい会場、地域会貢献の内容を理解しやすい展示を基本とする。

② 地域貢献の展示方法については、ポスターのみを用いた単なる一方向の展示ではなく、参加者が「豊かな未来社会」を体験・体感できる、参加体験型の展示「見て、触れて、感じて、作って、学び」となるよう工夫する。（各展示ブースを広く設定）

③ その他、多様な出展を想定するものの、本事業の趣旨に沿わない内容がある場合は出展対象としない。

３．会場・開催日時

奥武山公園・沖縄県立武道館アリーナ棟（沖縄県那覇市奥武山町５２）

2019 年 3 月 23 日（土曜日）10 時～16 時（予定）

３月２２日（金）午前９時～午後５時　　設営準備

３月２３日（土）午前９時～午後９時　　本番・片付け

４．対象

本学の地域貢献をはじめとする様々な活動（教育、研究、医療・診療、国際・地域連携など）に関する出展。

なお、学内公募以外に、本学附属図書館・風樹館、学生サークル及び包括連携協定自治体・民間企業の出展も予定している。

５．出展形式

① ブース形式（次頁「図１」参照）
実演・実験・講義などを 10 名程度の対象者に対して行う。

② 工作・ワークショップ形式（次頁「図２」参照）
テーブルが島に分かれ、対象者が同時に工作やワークショップ等を行う。

③ 講演・セミナー形式
50 人以内のスクール形式で講演やセミナーを行う。

④ パネル展示形式
ポスターパネルを会場の一部に集め、展示を行う。

⑤ その他

※②と③で１回当りの対象者数が少ない場合は、「①ブース形式」として出展も可能。

６．運営費

出展に関する運搬費（大型トラック借用）、ブース設置、電気工事、広報、体験キット、ポスター印刷等の消耗品などに係る経費は実行委員会（事務局）が負担する。

なお、学生配置に係る学生の雇い上げは要相談とする。

７．スケジュール（概略）

平成３０年１２月６日（木）		公募開始（期間：１４日間）
	１０日（月）	応募説明会（１４日までに２回程度開催）
	１９日（水）	応募締め切り（１７時受付メールまで）
	２１日（金）	採択決定（メール通知・出展申請書送付）
平成３１年	１月　上旬	出展者全体説明会の開催
		出展内容・タイトル・備金等の確定（個別調整あり）
	１月　下旬	ポスター・チラシ完成（出展個別広報開始）
	３月２２日（金）	会場への搬入・ブース等作成、リハーサル実施
	３月２３日（土）	**地域貢献フェア 2019（仮称）開催**

８．その他

本事業の評価・ＰＤＣＡの視点から、来場者アンケート及び出展者にもアンケートを実施する。

【出展形式のイメージ】

図１　ブース形式（基本サイズは横幅 3～5m、奥行 3m、椅子 10 脚程度）

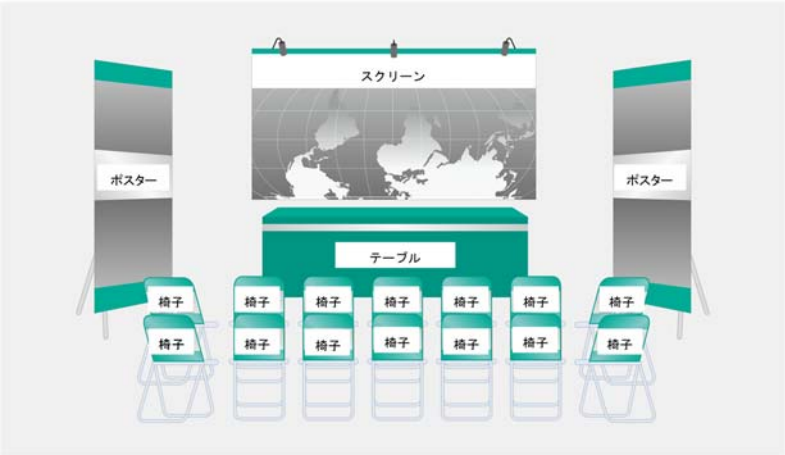
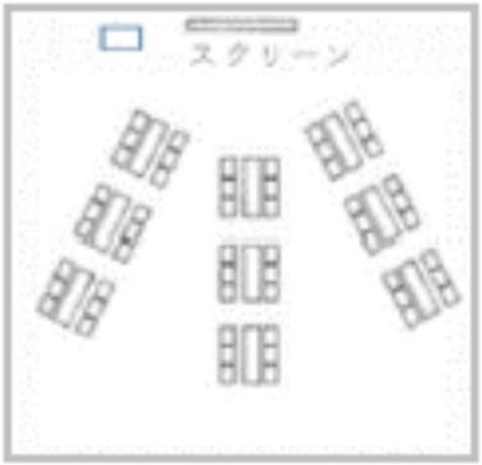


図２　工作・ワークショップ形式



1　「地域貢献大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する具体的方策等について（最終答申）」地域連携推進機構（平成 30 年 3 月 6 日）

2　前掲 1

「地域貢献フェア2019（仮称）」応募申請書（案）

応募団体情報	
1.出展名（タイトル）	
2.出展団体名	
3.責任者（所属・氏名）	

出展内容	
4.出展形式	
5.出展内容	
6.重視する対象者 （複数選択可）	□小学生　□中学生　□高校生　□大学生・大学院生 □専門学校生　□子どもを持つ親　□教育関係者　□行政関係者 □研究者　□メディア関係者　□高齢者 □民間等の技術・サービス関係者（具体的分野：　　） □その他（具体的に：　　）
7.出展イメージ図	
8.類似内容の出展実績	
9.特質事項	

申請書記入要項

①出展名（タイトル）
　事業名をそのまま使うのではなく、市民目線で出展内容が分かりやすいタイトルにしてください。

②出展団体名
　研究室名やプロジェクト名等を記載してください。

③責任者（所属・氏名）
　出展責任者の所属・氏名を記載してください。

④出展形式
　ブース形式、工作・ワークショップ形式、講演・セミナー形式、、パネル展示形式、その他から選択してください。

⑤出展内容
　出展内容について、取り組みの成果や地域との関わり等を踏まえ、分かりやすく記載してください。

⑥重視する対象者
　当日の展示で重視する対象者（ターゲット）を選択してください。（複数選択可）

⑦出展イメージ図
　可能な範囲で、出展形式に沿った展示のイメージイラストや写真等を添付してください。

⑧類似内容の出展実績
　過去に類似した展示の実績があれば、具体的に名称等を記載してください。

⑨特質事項
　水槽や電気機器など、当日及び準備で特に注意が必要と考えられるものがあれば、必ず記載してください。

（案）

学 内 地 連 第　　号
平成３０年１２月　　日

各部局等の長　　殿

学　　長
（公印省略）

「地域貢献フェア 2019（仮称）」に係る公募について

各部局等においては、地域連携・地域貢献活動に日頃よりご協力を賜り、感謝申し上げます。

本学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働により「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」（本学のビジョン）を目指しているところです。

平成 28 年度からの第 3 期中期目標期間も本年度で 3 年目を迎え、今年 3 月には、地域連携推進機構から「地域貢献型大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する具体的方策等について（最終答申）」が出されました。

本答申では、本学のビジョンの実現のために、地域社会とのコミュニケーションの場の創出としての「地域貢献事業フェア（仮称）」の開催が必要不可欠と指摘しています。

本答申を踏まえ、地域連携推進機構においては、地域貢献事業フェア（仮称）の基本理念（案）と基本方針（案）を作成し、先日の平成 30 年度第 2 回地域連携推進会議において全学的な実施が承認されたところです。

本地域貢献事業フェア（仮称）においては、本学が取り組む教育・研究・診療の成果を広く地域社会へ開示するために、学内の様々な資源（シーズ）をブース出展やパネル展などを通じて紹介することとしております。

つきましては、下記のとおり、公募しますので、貴部局内における教職員に対して、本公募の周知をお願いいたします。

記

【公募内容】

公募１：実行委員会委員の募集について

「地域貢献フェア 2019（仮称）」を実施するにあたり、事業を企画・立案・運営する実行委員会委員を随時募集しています。本事業に興味のある方、積極的に事業に参加したい方は、直接、以下の申し込み先までご連絡ください。

公募２：ブース等の出展の公募について

別添１の「地域貢献フェア 2019（仮称）」出展募集要項をご参照いただき、ブース等の出展を希望される方は、平成 30 年 12 月 19 日（木）17:00 までに、直接、以下の申し込み先までメールにて別添２の「地域貢献フェア 2019（仮称）」応募申請書をご提出ください。

【添付資料】

・別添１　「地域貢献フェア 2019（仮称）」出展募集要項
・別添２　「地域貢献フェア 2019（仮称）」応募申請書
・別添３　地域貢献型大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する具体的方策等について（最終答申）

【お問い合わせ先】
地域連携推進機構地域連携企画室
担当：特命准教授　畑中（内線：9073）
e-mail: hiroshi@cs.u-ryukyu.ac.jp
【お申し込み先】
総合企画戦略部 地域連携推進課 企画係
担当：大城（内線：8997）
e-mail: chikikaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

【審議３】
平成３０年１１月１６日
地域連携企画室会議 承認

平成３０年度地域連携推進機構公開講座実施計画書

室・部門（　地域連携企画室　）

① 講座名	地域円卓会議マネジメント講座				
② 受講対象者	行政職員、NPO職員、教職員、学生など、県内の地域活性化活動に従事している者			③ 募集人員	１６ 人
④ 開催会場	琉球大学 地域国際学習センター 3階 301講義室（12月16日、12月23日、1月27日、2月10日）、 琉球大学 地域創生総合研究棟 1階（1月14日）				
⑤ 講習料の希望額	４，２１０円	理由（料金規程定額によらない場合のみ記入）			
⑥ 講座の開設趣旨・内容等	地域社会の課題の解決をめざす対話の場である「沖縄式地域円卓会議」のマネジメントを行える人材を育成するため、ケーススタディを中心に課題解決の手法を学修する総論的な内容を扱います。 沖縄式地域円卓会議は、地域で起こっている「困り事」に立ち向かっている方々が、自ら第一声をあげることから始まります。多くのシンポジウムのように、成功事例の紹介から始めるのではなく、まずは統計等を元に事実に向き合い、参加者で共有することを大切にしています。具体的なテーマ決め、テーマの大きさを「食べられるサイズ」にすることが重要です。 本講義では、沖縄式地域円卓会議の手法である、地域の「困り事」を、単独あるいは2者間で協議するのではなく3者以上のステークホルダー（利害関係者）で、意見交換の方法を学んでいきます。様々な事実・視点・評価・事例が提供されるため、地域の「困り事」は研ぎ澄まされ、「社会課題」へと昇華していくプロセスを知ることができます。 また、本講義では、沖縄式地域円卓会議が取り組むテーマと参加者を決めるプロセス、当日の司会者と記録者（ファシリテーショングラフィック）による会議の運営方法を学びます。司会者が、対話を持って地域の社会課題を解きほぐし、どのように参加者の意識を「他人事から自分事（じぶんごと）」に変えていけるかのノウハウを習得します。記録者は、会議で発露された情報を構造化し、その記録は、今後の課題解決に向けてのアプローチの基礎となります。 さらに、実際の円卓会議の運営現場の見学と運営補助を行うことによって、学びを深めていき、最後は円卓会議を創るシミュレーションワークショップを体験できる内容となっています。				
⑦ 担当講師（代表者に○をつける）	○琉球大学　地域連携推進機構　特命准教授　宮里大八				
	公益財団法人みらいファンド沖縄　副代表理事　平良斗星				
	公益財団法人みらいファンド沖縄　代表理事、特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく　代表理事　小阪亘				
	特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく　副代表理事　宮道喜一				

⑧ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2018/12/16(日)	13:00 ～ 14:30	円卓会議についての説明、今後の進め方オリエン、ここを通して得たいこと・伝えたいこと、円卓会議の再現（ファシグラ貼り出し、映像等）	平良、小阪、宮里
2018/12/16(日)	14:40 ～ 16:10	円卓会議ができるまで、DAY1テーマ決め、DAY2キャスティング	平良、小阪、宮里
2018/12/23(日)	13:00 ～ 14:30	円卓会議の司会と進行について	平良、宮道、宮里
2018/12/23(日)	14:40 ～ 16:10	円卓会議のファシリテーショングラフィックについて	平良、宮道、宮里
2019/1/14(月)	12:30 ～ 17:00	子ども未来円卓会議　現場見学（運営実務）	平良、小阪、宮道、宮里
2019/1/27(日)	13:00 ～ 14:30	円卓会議活用者のインタビュー１	平良、小阪、宮里
2019/1/27(日)	14:40 ～ 16:10	円卓会議活用者のインタビュー２	平良、小阪、宮里
2019/2/10(日)	13:00 ～ 14:30	円卓会議を作るシミュレーションWS①	平良、小阪、宮道、宮里
2019/2/10(日)	14:40 ～ 16:10	円卓会議を作るシミュレーションWS②	平良、小阪、宮道、宮里

⑨ 共催など	公益財団法人みらいファンド沖縄、 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく	⑩サテライト配信の可否	可	⑪修了証書の発行について	要
⑫ 備考					

平成３０年度地域連携推進機構公開講座実施計画書

室・部門（　地域連携企画室　）

① 講座名	島嶼地域交流ファシリテーター養成講座		
② 受講対象者	島嶼地域、過疎地域にて地域づくりや地域コーディネート活動を実施する者（もしくは希望する者）、行政関係者、学校教職員、生徒・学生など、県内の地域活性化活動に従事している者	③ 募集人員	１６　人
④ 開催会場	琉球大学地域国際学習センター3階301（1月13日、2月2日、2月17日）、 南城市　久高島（2月3日）		
⑤ 講習料の希望額	４，２１０円	理由（料金規程定額によらない場合のみ記入）	
⑥ 講座の開設趣旨・内容等	本講座では、島嶼地域である離島が持つ特性や地域が抱える課題等について、離島交流を促進するコーディネーター、ファシリテーターを育成する総論的な内容を扱います。 受講生には、本講義を通じて、島嶼地域が有する価値は何であるのか、今後どのような形でこの地域に関わるべきであるのかということを、受講生一人一人が考え、受講後も地域社会が抱える様々な問題に対して能動的に取り組む主体となることを期待します。 本講座は、学内教員による講義に加え、離島や地域おこし等に取り組む外部講師や専門家による講話（サテライト配信システムによる離島への配信講義も含む）を取り入れます。 なお、2月3日の南城市の久高島へのフィールドワークを実施する際には、琉球大学に集合して専用バスにて移動して行います。		
⑦ 担当講師（代表者に○をつける）	○琉球大学　地域連携推進機構　特命准教授　宮里大八		
	特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会　会長　平井雅		
	株式会社アンカーリングジャパン　代表取締役　中村圭一郎		

⑧ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2019/1/13(日)	13:00 ～ 14:30	オリエンテーション、ファシリテーションとは、場のデザイン（アイスブレイク手法）	平井、宮里
2019/1/13(日)	14:40 ～ 16:10	ファシリテーターの役割、プログラムデザイン	平井、宮里
2019/1/13(日)	16:20 ～ 17:50	構造化、・合意形成のスキル、ファシリテーターの実践事例	平井、宮里
2019/2/2(土)	13:00 ～ 14:30	事例報告「世界自然遺産登録に向けた奄美・琉球の取組」	中村、宮里
2019/2/2(土)	14:40 ～ 16:10	事例報告「SDGs（持続可能な開発目標）に沿った観光プログラムづくり」	中村、宮里
2019/2/3(日)	10:00 ～ 17:00	南城市　久高島でのフィールドワーク	中村、宮里
2019/2/17(日)	13:00 ～ 14:30	ファシリテーター演習①（島嶼地域でのプログラム企画提案づくり）	平井、宮里
2019/2/17(日)	14:40 ～ 16:10	ファシリテーター演習②（島嶼地域でのプログラム企画提案づくり）	平井、宮里
2019/2/17(日)	16:20 ～ 17:50	最終発表及びフィードバック	平井、宮里

⑨ 共催など		⑩サテライト配信の可否	可	⑪修了証書の発行について	要
⑫ 備考					

平成３０年９月２１日
地域連携推進機構長決定

地域連携推進機構が実施する公開講座等の実施方針

１．趣旨

この方針は、琉球大学における公開講座等に関する規程（以下「公開講座等規程」という。）第７条の規定に基づき、公開講座等規程第４条第１項の公開講座を地域連携推進機構（以下「機構」という。）が実施する場合において、必要な事項を定める。

２．目的

機構における地域連携機能を広く社会に開放し、地域社会の発展に資する学習機会を充実させることで人々の教養や生活文化の向上、健康や社会福祉の増進、職業等に関する専門的知識や技術の革新に貢献することを目的に、機構が公開講座を企画・実施する。

３．公開講座の要件

（講座の名称）

（１）上記「２．目的」を達成するため、地域連携推進機構が企画・実施する公開講座は、琉球大学地域連携推進機構公開講座（以下「公開講座」という。）と称する。

（内容）

（２）講座の内容は上記の「２．目的」に添うものとするとともに、企画・実施に際しては学内の学術資源のみならず地域資源も活用することを積極的に行い、公開として相応しい内容とする。なおその場合であっても、講座の内容は中立を保ち、特定の宗教や宗派、政党や政治団体等への勧誘や奨励にならないよう留意する。また講座が特定人に収益を帰属させたり、特定企業の広告・宣伝、販売の促進といった営利の追求にならないよう留意する。

（対象）

（３）公開講座の対象は市民一般とし、講座の内容に応じて自由かつ的確に設定するものとする。

（企画立案者及び担当講師）

（４）公開講座を企画立案する担当者は地域連携推進機構の教職員（常勤）とし、講座の担当講師は、当該企画立案者及び非常勤教職員や学外者も講師として加えることができる。

（受講料）

（５）受講料の設定は「国立大学法人琉球大学料金規程」によるものとする。

４．講座実施の手続

公開講座の実施を計画している教職員は、所定の計画書を作成し、その教職員が所属する、地域連携企画室、産学官連携部門、生涯学習推進部門において、実施の妥当性を判断し、妥当と認める場合には、室・部門長名で機構運営会議に提案し、公開講座実施の了解を得る。

５．その他

公開講座の提案・実施に係る事務処理は、提案した室・部門を担当する地域連携推進課の係が行う。

附　則

１　この実施方針は，平成３０年９月２１日から施行する。

国立大学法人琉球大学料金規程（抄）

（平成１６年４月１日制定）

第１章　総　則

（趣旨）

第１条　この規程は，国立大学法人琉球大学（以下「本法人」という。）における授業料その他の費用に関し必要な事項を定めるものとする。なお，この規程に定める料金の免除及び徴収猶予に関しては，琉球大学学則，琉球大学大学院学則その他関係規則等に基づくところによる。

第７章　公開講座及び公開授業の講習料

（講習料の額及び徴収方法）

第２０条　公開講座の講習料の額は別表第１３，公開授業の講習料の額は別表第１３の２に定めるとおりとし，受講を許可するときに徴収するものとする。ただし，学長が特に必要と認めるときは，講習料の一部若しくは全部を免除し，又は加算した額を徴収することができるものとする。

附　則（平成３０年３月２７日）

この規程は，平成３０年３月２７日から施行する。ただし，改正後の第２４条の３の規定は，平成３０年２月２８日から適用する。

別表第１３（第２０条関係）

単位：円

１講座当たりの時間数		公開講座講習料
	５時間以下	２，６７０
５時間を超え	１０時間以下	３，１８０
１０時間を超え	１５時間以下	３，７００
１５時間を超え	２０時間以下	４，２１０
２０時間を超え	２５時間以下	４，７３０
２５時間を超え	３０時間以下	５，２４０
３０時間を超え	３５時間以下	５，７６０

３５時間を超え	４０時間以下	６，２７０
４０時間を超え	４５時間以下	６，７８０
４５時間を超え	５０時間以下	７，３００
５０時間を超え	５５時間以下	７，８１０
５５時間を超え	６０時間以下	８，３３０
６０時間を超え	６５時間以下	８，８４０
６５時間を超え	７０時間以下	９，３６０
７０時間を超え	７５時間以下	９，８７０
７５時間を超え	８０時間以下	１０，３８０
８０時間を超え	８５時間以下	１０，９００
８５時間を超え	９０時間以下	１１，４１０
９０時間を超え	９５時間以下	１１，９３０
９５時間を超え	１００時間以下	１２，４４０

別表第１３の２　（第２０条関係）

単位：円

区　分	公開授業講習料
単価料金：１科目（全１５回の場合）	４，７３０
単価料金：１科目（全３０回の場合）	６，７８０
半期定額料金：半期間（前期又は後期）に２科目以上を受講する場合	６，７８０
通年定額料金：通年で，２科目以上を受講する場合	９，３６０

琉球大学における公開講座等に関する規程

（平成３０年３月２７日
制　　定）

（趣旨）

第１条　この規程は，琉球大学学則（以下「学則」という。）第５９条第２項の規定に基づき，琉球大学(以下「本学」という。)において開設する公開講座（一般市民に公開する正規外の授業等をいう。）及び公開授業（一般市民に公開する正規の授業をいう。）に関し，必要な事項を定める。

（定義）

第２条　この規程において「部局等」とは，グローバル教育支援機構，研究推進機構，地域連携推進機構，亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構，ダイバーシティ推進本部，広報戦略本部，国際戦略本部，大学評価ＩＲマネジメントセンター及びハラスメント相談支援センター，教育研究等組織並びに事務組織の各組織をいう。

２　この規程において「部局等の長」とは，前項に規定する部局等の長をいう。

（全学的に実施する公開講座等）

第３条　本学は，公開講座及び公開授業（以下「公開講座等」という。）を開設する。

２　前項の公開講座等は，地域連携推進機構長が企画及び立案の上，実施する。

（部局等が実施する公開講座等）

第４条　部局等は，公開講座等を開設することができる。

２　前項の公開講座等は，当該部局等の長が企画及び立案の上，実施する。

（修了証書の授与）

第５条　学長及び部局等の長は，公開講座等を受講し，所定の要件を満たした者に対して，修了証書を授与することができる。

（講習料の額及び徴収方法）

第６条　公開講座等の講習料の額及び徴収方法については，国立大学法人琉球大学料金規程に定めるとおりとする。

（雑則）

第７条　この規程に定めるもののほか，公開講座の実施に関し必要な事項は，部局等の長が別に定める。

（改廃）

第８条　この規程の改廃は，地域連携推進会議の議を経て，地域連携推進機構長が行う。

附　則

この規程は，平成３０年４月１日から施行する。

【審議４】
平成３０年１１月１６日
生涯学習推進部門会議 承認

学 内 地 連 第　　号
平成３０年　　月　　日

各学部等の長　　殿

地域連携推進機構長
（公印省略）

平成３１年度公開講座の実施について（依頼）

平素より地域連携推進機構の運営にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。

さて、平成３１年度につきましても、公開講座を実施することといたしましたので、ご依頼いたします。

地域連携推進機構主催の公開講座につきまして、別紙１の「全学的に実施する公開講座等の実施方針」に基づき次年度も公開講座を実施することとなります。

次年度も、一般市民の生活課題や教養の涵養に資する「一般コース」および専門分野における資格取得や職能開発・向上に寄与する講座を提供する「専門コース」の枠で公開講座を募集いたします。

今年度に引き続き本機構主催の公開講座の主旨をご理解いただき、次年度もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、新規での公開講座や琉球大学サテライトキャンパスでの公開講座の実施を検討されている先生方におかれましては、講座の形式・内容に関するご相談を随時承りますので、下記の事務局までご連絡ください。

琉球大学サテライトキャンパスについての詳しい内容については、別紙２及び別紙３をご覧ください。

併せて、各部局等におかれては一般コース２講座以上、専門コース１講座以上のご提供をお願いいたします（別紙１参照）。また、講座の内容及びテーマの適正については各部局等においてご精査の上ご提出頂きますようお願い申し上げます。

記

〇提出資料：平成３１年度公開講座実施計画書（別紙４）
（電子データでの提出をお願い致します。）
〇提出期限：　平成３０年１２月２８日（金）
※様式は別途メールにて各学部等事務担当者宛に送付いたします。
〇問合・提出先：
（公開講座全般）地域連携推進課地域連携推進係　宮平（内線：８０１９）
（琉球大学サテライトキャンパスに関すること）　赤嶺（内線：９０５８）
〇参考
平成３０年度公開講座一覧（別紙５を参照）

（別紙１）

平成３０年３月２３日
地域連携推進機構長決定

全学的に実施する公開講座等の実施方針

１．趣旨

この方針は、琉球大学における公開講座等に関する規程（以下「公開講座等規程」という。）第７条の規定に基づき、公開講座等規程第３条第１項の公開講座の実施に関し、必要な事項を定める。

２．目的

本学の教育・研究機能を広く社会に開放し、地域社会の発展に資する学習機会を充実させることで人々の教養や生活文化の向上、健康や社会福祉の増進、職業等に関する専門的知識や技術の革新に貢献することを目的に、地域社会の情勢を鑑み全学的見地から公開講座を企画・実施する。

３．公開講座の要件

（講座の名称）

（１）上記「２．目的」を達成するため、地域連携推進機構が各部局等と共同で企画・実施する公開講座を琉球大学公開講座と称する。

（講座の種類）

（２）琉球大学公開講座は、広く学術資源を提供することで人々の教養や生活文化の向上、健康や社会福祉の増進を図るための「一般コース」と、より高度な内容や専門職・職業人などを対象に専門的知識や技術の修得、再教育の機会の充実を図る「専門コース」とする。なお、琉球大学公開講座は、必要に応じて自治体や公共的団体等からの共催や後援を得ることができ、これを「連携講座」とする。ただし、琉球大学が共催や後援となる講座を琉球大学公開講座として実施することは認めない。

（内容）

（３）講座の内容は上記の「２．目的」に添うものとするとともに、企画・実施に際しては提供部局等ならびに琉球大学の学術資源の公開として相応しい内容とする。なおその場合であっても、講座の内容は中立を保ち、特定の宗教や宗派、政党や政治団体等への勧誘や奨励にならないよう留意が必要である。また講座が特定人に収益を帰属させたり、特定企業の広告・宣伝、販売の促進といった営利の追求にならないよう留意が必要である。

（対象）

（４）琉球大学公開講座の対象は市民一般とし、講座の内容に応じて自由かつ的確に設定するものとする。

（担当講師）

（５）琉球大学公開講座を担当する講師は原則として本学の教職員（常勤）とするが、上記「２．目的」の達成のために特に必要とされる場合は、非常勤教職員や学外者も講師として加えることができる。ただし、招聘にかかる旅費は支出しない。

（回数・時間数）

（６）各講座の回数や時間数は、原則として各講座の目的に応じて設定することができる。総時間数が 10 時間以内、１回２～３時間で３～５回程度の開催を１つの目安とするが、講座の内容や目的によっては１回のみの開講や長期にわたる継続的な開催も可とする。

（会場）

（７）会場は原則として学内とするが、講座の目的や内容によっては学外で開催することもできる。なお、特に当該の学習内容や学習機会が得がたいと判断される場合には離島地域での開催も認められるほか、サテライトキャンパスを用いた双方向型同時配信による講座の実施は特に推奨されるものである。

（経費）

（８）講座を実施するにあたって必要となる経費については、講座内容・募集定員等を勘案し、必要最小限の額にとどめるものとする。また、講座の開催に際し受講者の利益に帰属する教材等（保険料含）は原則として受益者負担（受講者からの実費徴収）とする。

（受講料）

（９）受講料の設定は「国立大学法人琉球大学料金規程」によるものとする。

４．講座の募集・応募

（１）講座の募集は地域連携推進機構長（以下、「機構長」という）が部局等の長に対し文書をもって依頼するものとする。募集は年１回行うが、必要に応じて追加の応募をすることができる。

（２）応募は各部局等単位で行い、各部局等の学術資源の公開として相応しい講座を「一般コース」２講座以上、「専門コース」１講座以上とする。

５．講座計画の審議及び決定

（１）当該年度に実施する講座及び上記「３．公開講座の要件」にかかる講座の詳細については、提出された各実施計画案をもとに地域連携推進機構運営会議（以下、「運

営会議」という）で審議し決定する。

（２）実施計画案の修正・変更については、機構長、関係部局等の長等、担当予定講師等で協議し、その結果をもとに生涯学習推進部門会議で審議し決定する。

（３）当該年度に実施する公開講座の詳細が決定した場合は文書をもって各部局等の長に通知するものとする。

（４）なお、本機構が企画する講座の実施計画案についても、運営会議において審議するものとする。

６．その他

その他琉球大学公開講座の企画・実施・評価に必要となる事項については、運営会議において適宜審議し決定するものとする。

附　則

１　この実施方針は，平成３０年４月１日から施行する。

２　琉球大学公開講座実施方針（平成２８年１１月２８日地域連携推進機構長決定）は，廃止する。

（別紙２）

琉球大学サテライトキャンパス及びサテライト教育システム等について

１．琉球大学サテライトキャンパス

琉球大学サテライトキャンパスは、自治体の協力により、既存の社会教育施設等の一室を共用にて借用し、本学の公開講座の開催等に利用しています。

平成２７年度までに県内６カ所にサテライトキャンパスを設置しました。

① 那覇市ほしぞら公民館（那覇市安里２－１－１）
② 宮古島市中央公民館（宮古島市平良字下里３１５）
③ 石垣市立図書館（石垣市浜崎町１―１）
④ 久米島町具志川農村環境改善センター（久米島町字仲泊７３０）
⑤ 大宜味村農村活性化センター（大宜味村字根路銘１３７３）
⑥ 国頭村民ふれあいセンター（国頭村辺土名１１２）

２．サテライト教育システム

琉球大学（地域国際学習センター３０１講義室、共通教育棟１－１１８教室及び光回線が接続されている教室等【大学会館、法文新棟２１５教室等】）と琉球大学サテライトキャンパスをインターネットにより双方向で結ぶビデオ会議システムです。

３．琉球大学サテライトキャンパスの活用例

現在、琉球大学サテライトキャンパスは、以下のとおり利用しております。

これら以外の活用を想定する場合には、本件担当までご相談ください。

① 琉球大学サテライトキャンパスでの出前講座の実施
② 琉球大学（地域国際学習センター３０１講義室、共通教育棟１－１１８教室及び光回線が接続されている教室等【大学会館、法文新棟２１５教室等】）で実施する公開講座等をサテライト教育システムを活用し、サテライトキャンパスへインターネット配信
③ 琉球大学サテライトキャンパスで実施する出前講座等をサテライト教育システムを活用し、他のサテライトキャンパスへインターネット配信　　等

※サテライト教育システムによる配信を行う場合には、機器操作を行う事務員が１名～２名程度講座等につきます。本事務員は、配信のための機器の設置・片付け、カメラワーク等を担当します。

４．予算措置

公開講座等の実施に係るサテライトキャンパスへの配信等に係る経費及びサテライトキャンパス借料の負担はございません。（サテライトキャンパスへの講師派遣旅費や外部講師への謝金等は、地域連携推進機構主催の公開講座に係る予算からの支出となります。）

琉球大学サテライトキャンパスについて

別紙3

1　琉球大学サテライトキャンパス

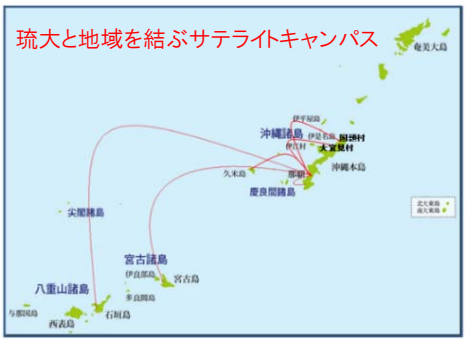
琉球大学では、~~大学と~~自治体と~~が~~連携・協力し~~、~~地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め~~る大学を支援し、~~地域の再生・活性化の拠点となる大学の形成を目的とした~~文部科学省の補助事業~~「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省）に~~本学~~申請し、~~の~~「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）（以降「ちゅら島事業」という）」事業が平成２５年度に採択されました。

ちゅら島事業では、県内の島嶼部を含む複数の地域に琉球大学サテライトキャンパスを設置し、「能力強化プログラム（自治体職員の政策形成能力強化等）」や「学び直しの機会拡充プログラム（公開講座等の実施）」を提供することで、地域との共同による地域人材の育成を推進し、大学と地域がより結びついた学びのコミュニティモデルの構築を推進することを目指して平成２５年度から平成２７年度にかけて以下の６カ所の施設内に「琉球大学サテライト　キャンパス」を設置しました。

（１）那覇キャンパス　：那覇市牧志駅前ほしぞら公民館（那覇市安里２丁目１番１号）
（２）宮古島キャンパス：宮古島市中央公民館（宮古島市平良字下里３１５）
（３）石垣キャンパス　：石垣市立図書館（石垣市浜崎町１丁目１番地）
（４）久米島キャンパス：久米島町具志川農村環境改善センター（久米島町字仲泊７３０番地）
（５）国頭キャンパス　：国頭村民ふれあいセンター（国頭村辺土名112）
（６）大宜味キャンパス：大宜味村農村活性化センター（大宜味村字根路銘1373）

那覇キャンパス

宮古島キャンパス



石垣キャンパス

久米島キャンパス

国頭キャンパス

大宜味キャンパス

2　サテライト教育システム（別添１）

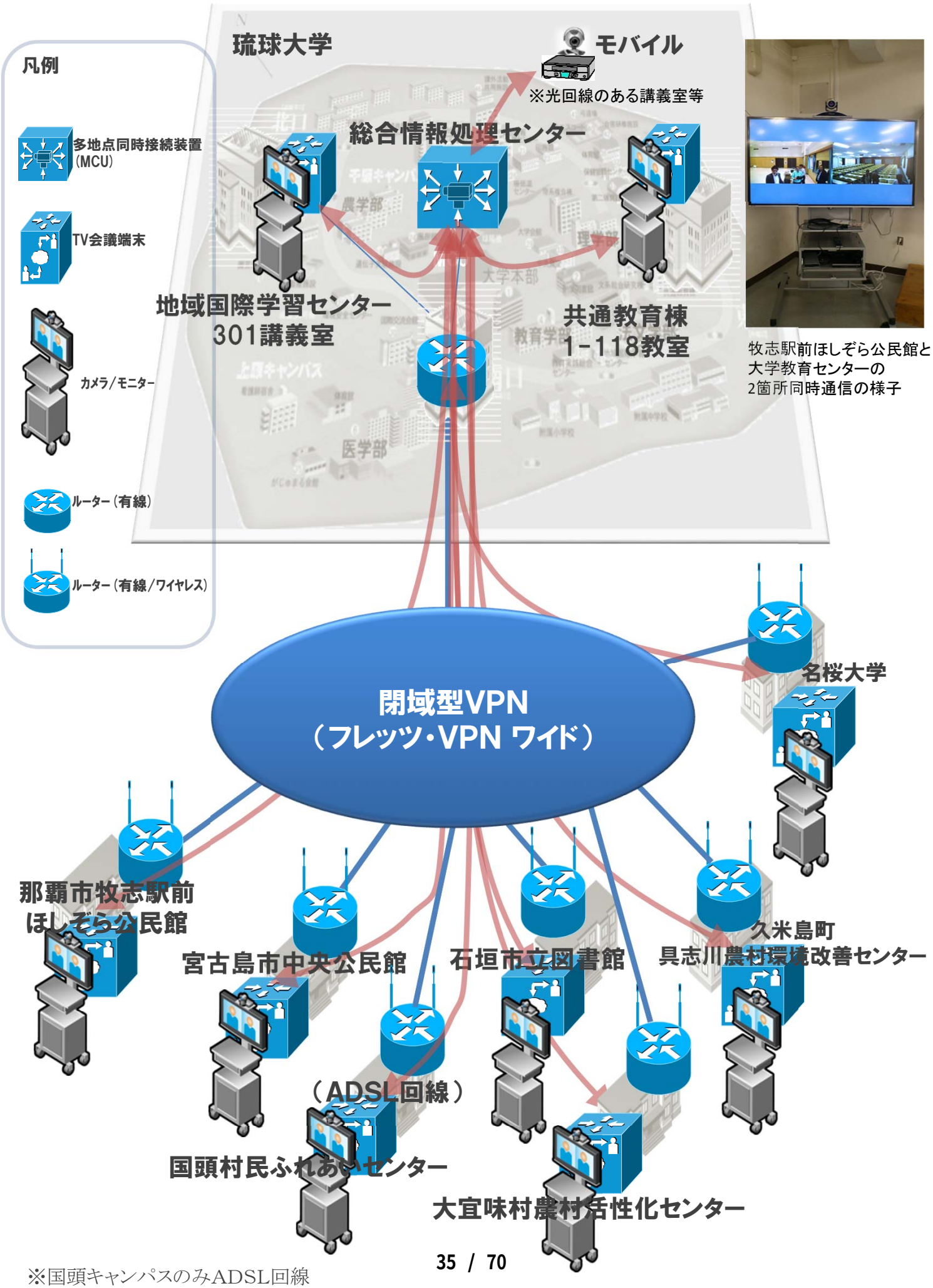
琉球大学サテライトキャンパスには、当該サテライトキャンパスと本学（地域国際学習センター３０１講義室及び共通教育棟１１８教室）とをインターネットを活用してつなぐ「サテライト教育システム（ビデオ会議システム）」を設置しました。これにより、琉球大学主催の公開講座や公開授業、シンポジウム等を各サテライトへライブ配信したり、本学と各サテライトとの双方向でのやりとりが可能です。

3　琉球大学サテライトキャンパスの活用（別添２）

平成３０年度は、本学の公開講座及び公開授業の一部を配信したり、本学の教職員や学生が各キャンパスに出張し、出前での公開講座を実施しました。

（配信コンテンツ）
・公開授業「海洋の科学（理学部）」
・公開講座「市民ランナーのためのランニング科学講座（医学部）」　等
（出前講座）
・水素のチカラ　～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～　等

サテライト教育システム構成概略図



※国頭キャンパスのみADSL回線

別紙4

平成31年度公開講座実施計画書

部局名

① 講座名							
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者		④ 募集人数	人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場						⑧ サテライト配信	可 ・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入） 円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等							
⑪ 担当講師（代表者に〇をつける）	氏名（所属・職名）						

⑫ プ ロ グ ラ ム

実施日	時間	講座内容	担当講師

⑬ 必要経費希望額の積算内訳			
	合 計		円
⑭ 備 考			

平成31年度公開講座実施計画書
（記　入　例）

部局名　　法文学部

① 講座名	世界的金融危機の背景とその影響						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者		④ 募集人数	50　人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	法文学部総合社会システム学科						
⑦ 会場	琉球大学法文学部新棟215教室					⑧ サテライト配信	可・否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入） 3,180 円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	米国のサブプライムローンに端を発する世界的な金融危機は、各国の実体経済にも影響を及ぼしており、景気・雇用の悪化が大きな問題となっています。今後、この問題は、経済の領域にとどまらず、政治、社会、文化、その他様々な領域に影響を及ぼすことが予想されます。 米国について見てみれば、そもそもサブプライムローンとは何だったのか、ここに至るまでに米国の経済・社会では何が起きていたのか、などが大きな関心事となっています。その他の国々の動向も含め、今後、国際政治や国際経済がどのような方向に向かっていくのかは、今を生きる私たちにとって重要な学習課題であると言えます。 本講座では、今日の金融危機の構造や影響にとどまらず、その発信源となった米国の文学・歴史・思想まで検討を加えることで、今われわれが直面している危機の本質に迫っていきます。						
⑪ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○　琉大　太郎（○○学部○○学科教授）						
	沖縄　花子（○○学部○○○○学科教授）						

⑫ プ ロ グ ラ ム

実施日	時間	講座内容	担当講師
9月19日	13:00-16:00	サブプライムローンとは何か	琉大　太郎
9月26日	13:00-16:00	世界的金融危機の構造やその影響について	沖縄　花子

⑬ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト（2名）：単価760円（1時間）×6時間×2名分＝9，120円 USBフラッシュメモリ（2個）：2G　1，260円×2個＝2，520円 その他消耗品（印刷用紙代等）：5，000円		
	合　　計	16,640	円
⑭ 備　　考	9月19日に関しては、教室が変更になる場合があります。		

平成30年度公開講座実施計画書の留意事項

※中期計画・年度計画に明記されていますように、公開講座等の大学開放事業の拡充が大学全体の方針となっています。またその実施結果は評価の対象となります。特に募集定員と実際の参加状況、必要経費と収入などの定量的結果、そしてアウトカム（成果）の公表と評価が、強く求められてきます。公開講座の計画に当たっては、これらの点に十分留意してください。また、この実施計画書は地域連携推進機構運営会議での検討資料となりますので、講座の趣旨・目的・内容や特色等については、できるだけ具体的に記述してください。

地域連携推進機構生涯学習推進部門
総合企画戦略部地域連携推進課

入力する欄	留意事項
① 講座名	講座名を記入してください。（第〇〇回等は記入しない。）
② 講座の種類	該当するコースを◯で囲んでください。
③ 受講対象者	「市民一般」、「〇〇関係者」等と具体的に記入してください。
④ 募集人数	実態に即した人数を記入してください。
⑤ 修了証の発行	受講者へ修了証を発行する予定がある場合については「要」とし、不要である場合は「不要」としてください。
⑥ 共催など	主催は琉球大学となりますが、地域の自治体や教育委員会、民間企業等との連携がある場合には、その種類（共催・後援等）と機関名を併せて記入してください。また、共催・後援等の内容についても簡潔に記入してください。
⑦ 開催会場	会場（教室）名を記入してください。
⑨ 受講料	別紙「単価表」に基づく受講料を記入してください。別紙「単価表」によらない（一部免除若しくは加算する）場合には、その理由と希望する金額・根拠を記入してください。全額免除（無料）を希望する場合は該当する免除理由をア）～エ）から選択してください。ア）～エ）によらない場合はオ）を選択し、理由を備考欄に記入してください。 ア）福祉・健康に関する講座 イ）福祉的配慮が必要な方を対象とする講座 ウ）児童・生徒を対象とする講座 エ）サテライトキャンパスを活用した講座 オ）その他（備考に理由を記入）
⑩ 講座開設の趣旨・内容等	開設する講座の目的や趣旨、主な内容について具体的に記入してください。受講者が見て講座の内容が想起できるよう、わかりやすく、魅力的な記述をしてください。
⑪ 担当講師	氏名、所属、職名を記入してください。複数の場合には代表者には〇をつけてください。
⑫ プログラム	実施日、曜日、開催時間帯、講座内容、担当講師名を記入してください。
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	公開講座の実施に際し、購入が必要な物品や人件費等を記入してください（個数や単価）。
⑭ 備考	講座の受講に際し、受講者の負担となる経費（市販の資料や材料の購入費等）や当日の服装、持参すべきものなどをご記入ください。なお、ケガなどの可能性がある講座に関しては、実費負担によって保険加入する必要などを明記してください。

別表

1講座当たり時間数	公開講座講習料
5 時間以下	2,670 円
5 時間を越え　10 時間以下	3,180 円
10 時間を越え　15 時間以下	3,700 円
15 時間を越え　20 時間以下	4,210 円
20 時間を越え　25 時間以下	4,730 円
25 時間を越え　30 時間以下	5,240 円
30 時間を越え　35 時間以下	5,760 円
35 時間を越え　40 時間以下	6,270 円
40 時間を越え　45 時間以下	6,780 円
45 時間を越え　50 時間以下	7,300 円
50 時間を越え　55 時間以下	7,810 円
55 時間を越え　60 時間以下	8,330 円
60 時間を越え　65 時間以下	8,840 円
65 時間を越え　70 時間以下	9,360 円
70 時間を越え　75 時間以下	9,870 円
75 時間を越え　80 時間以下	10,380 円
80 時間を越え　85 時間以下	10,900 円
85 時間を越え　90 時間以下	11,410 円
90 時間を越え　95 時間以下	11,930 円
95 時間を越え　100 時間以下	12,440 円

平成30年度　公開講座一覧

●専門コース

連番	公開講座番号	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講者数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	対象者	開催期間	会場	備考
1	22	医学部	遠藤　由美子（医学部保健学科　准教授）	看護職の研究力アップ講座	15		¥3,180	臨床看護研究を実施予定または実施中の看護職	5月19日（土）、6月23日（土）、9月8日（土）、11月17日（土）、1月19日（土）	医学部保健学科棟2階213室	H29年度も開講
2	23	人文社会学部	伊藤　義徳（人文社会学部　准教授）	「支援者」のためのマインドフルネス認知療法	15	—	¥15,000	教育・医療・福祉等の現場で人の支援に携わる方	9月11日（火）～12月25日（火）	教育学部105室	H29年度も開講 日程の都合が合わないことから、担当講師より開講中止の申出があった
3	28	工学部	渡嘉敷　健（工学部工学科建築学コース　准教授）	ホールマネージメント	15	1	¥3,180	ホール技術者及び一般市民	10月6日（土）、10月13日（土）	工学部2号館2階残響室・無響室及び小会議室	
4	24	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース教授）	第二種電気工事士試験対策講習（筆記・上期）	30	37	¥3,700 （大学生は¥1,850）	市民一般並びに工学系大学生	4月28日（土）～6月2日（土）	工学部4号館111室	H29年度も開講
5	26	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース教授）	第二種電気工事士試験対策講習（筆記・下期）	20	10	¥3,700 （大学生は¥1,850）	市民一般並びに工学系大学生	9月1日（土）～9月29日（土）	工学部4号館111室	H29年度も開講
6	25	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース教授）	第二種電気工事士試験対策講習（技能・上期）	20	32	¥4,730 （大学生は¥2,300）	市民一般並びに工学系大学生	6月9日（土）～7月21日（土）	工学部2号館226号室	H29年度も開講
7	27	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース教授）	第二種電気工事士試験対策講習（技能・下期）	20	18	¥4,730 （大学生は¥2,300）	市民一般並びに工学系大学生	10月13日（土）～12月1日（土）	工学部2号館226号室	H29年度も開講
8	29	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	心理リハビリテイション・ボランティア養成講座	50	65	無　料	教育・福祉・医療従事者、障がい児（者）の家族、学生等	4月28日（土）	琉球大学大学会館3階特別会議室	各サテライトキャンパスへ配信 H29年度も開講
9	30	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	心理リハビリテイション（動作法）Ⅰ	（有料）5人 （無料）10人	（有料）5人 （無料）8人	¥5,240	（有料）教育・福祉・医療従事者 （無料）障がい者とその家族	5月7日（月）～7月9日（月）	琉球大学保健管理センター	H29年度も開講
10	31	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	心理リハビリテイション（動作法）Ⅱ	（有料）5人 （無料）10人		¥5,240	（有料）教育・福祉・医療従事者 （無料）障がい者とその家族	10月1日（月）～12月10日（月）	琉球大学保健管理センター	H29年度も開講
11	32	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	心理リハビリテイション（動作法）キャンプ in 石垣島	（有料）10人 （無料）20人	（有料）10人 （無料）51人	¥3,700	（有料）教育・福祉・医療従事者 （無料）障がい者とその家族	7月21日（土）～7月22日（日）	NPO法人　ちゅらハウス	八重山にて実施 H29年度も開講
12	33	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	心理リハビリテイション（動作法）キャンプ in 宮古島	（有料）12人 （無料）30人	（有料）7人 （無料）26人	¥3,700	（有料）教育・福祉・医療従事者 （無料）障がい者とその家族	8月26日（日）～8月28日（火）	沖縄県立宮古特別支援学校	宮古にて実施 H29年度も開講
13	37	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	心理リハビリテイション（動作法）キャンプ　in　名護	（有料）10人 （無料）20人		¥3,180	（有料）教育・福祉・医療従事者 （無料）障がい者とその家族	3月16日（土）～3月17日（日）	沖縄県立名護青少年の家	H29年度も開講
14	35	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	自立活動に生かす心理リハビリテイション（動作法）出前講座　in 那覇特別支援学校	20	24人	無　料	特別支援学校教員、児童生徒	9月14日（金）、2月15日(金）	沖縄県立那覇特別支援学校	H29年度も開講
15	36	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	自立活動に生かす心理リハビリテイション（動作法）出前講座　in 饒が丘特別支援学校	20		無　料	特別支援学校教員、児童生徒	9月21日（木）、2月7日（木）	沖縄県立饒が丘特別支援学校	H29年度も開講
16	34	保健管理センター	古川　卓（グローバル教育支援機構　保健管理部門教授）	自立活動に生かす心理リハビリテイション（動作法）出前講座　in 泡瀬特別支援学校	20	11人	無　料	特別支援学校教員、児童生徒	9月7日（金）、2月1日（金）	沖縄県立泡瀬特別支援学校	H29年度も開講
※専門コース：16講座											

●一般コース

連番	公開講座番号	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講者数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	対象者	開催期間	会場	備考
1	3	医学部	大湾　知子（医学部保健学科成人・がん看護学　准教授）	食と排泄の知って得する健康まちづくり！ ～ 宜野湾市長田区公民館から発信！～	70	29	無　料	市民一般	6月17日（日）	長田区公民館	
2	14	医学部	照屋　典子（医学部保健学科成人・がん看護学　助教）	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	50	68	無　料	市民一般	9月8日（土）	社会医療法人敬愛会　中頭病院ホール	共催：社会医療法人敬愛会　中頭病院
3	20	医学部	尾尻　義彦（医学部保健学科　助教）	市民ランナーのためのランニング科学講座	各会場の定員による		無　料	市民一般	11月9日（金）、11月10日（土）	地域国際学習センター301講義室、浦添市陸上競技賞	琉球大学地域国際学習センター301講義室から各サテライトへ配信
4	5	医学部	尾尻　義彦（医学部保健学科　助教）	めざせ！　NAHAマラソン完走へ	各会場の定員による		無　料	市民一般	7月27（金）、8月10日（金）、9月7日（金）、10月5日（金）、11月9日（金）、11月10日（土）、12月7日（金）	地域国際学習センター301講義室、浦添市陸上競技賞	琉球大学地域国際学習センター301講義室から各サテライトへ配信
5	16	国際地域創造学部	大島　順子　（国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授）	やんばる山学校	20		¥3,180	市民一般	11月23日（金）～ 11月24日（日）	琉球大学与那フィールド、国頭村森林公園及び国頭村内の森林やダム周辺	H29年度も開講
6	17	国際地域創造学部	大島　順子　（国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授）	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習	20		¥3,180	市民一般（高校生以上対象）、教育関係者	2月2日（土）～2月3日（日）	琉球大学与那フィールド、国頭村やんばるの森	
7	6	教育学部	松本　由香　（教育学部家政教育　教授）	オリジナル模様ワンピースづくりにトライ！	6	6	¥3,180	一般・学生	8月4日（土）、8月5日（日）	教育学部棟333教室	H29年度も開講
8	46	教育学部	清水　洋一（教育学部技術教育教室　教授）	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	10組 （20人）	13	無　料	小学校4～6年生と保護者	7月22日(日)	教育学部102教室	H29年度も開講
9	60	教育学部	笹澤　吉明（教育学部　准教授）	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	120		無　料 （各自で傷害保険等の加入必須）	小学生	5月～3月	琉球大学サッカー場及び講義室 （雨天時は体育館）	H29年度も開講
10	45	教育学部	岡本　牧子　（教育学部技術教育専修　准教授）	新聞記者体験　－エネルギーってなんだろう？－	20	7	無　料	小学4～6年生とその保護者	7月28日（土）	教育学部本館103	
11	39	教育学部	岡田　恵美（教育学部音楽教育講座 准教授）	〈ものづくりと音楽体験〉 手作り打楽器「カホン」と生活廃材楽器によるパーカッション・アンサンブル体験！	10	10	無　料	主に小学校高学年・中学生 （保護者の参加可）	8月4日（土）	教育学部技術教育棟、教職実践棟1階実践指導室AB教室	
12	4	教育学部	下地　敏洋（大学院教育学研究科　教授）	老年学への招待－主観的幸福感をいかに高めるか－	25	39	無　料	一般市民	6月30日（土）、7月7日（土）、7月21日（土）、7月28日（土）	教育学部棟101号室	※サテライト配信なし（3/26担当教員より確認）
13	42	教育学部	三輪　一義（教育学部生涯健康教育コース教授）	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室	200		無　料	ハンドボール愛好者	4月8日（土）～ 3月11日（日）	琉球大学第一体育館	H29年度も開講
14	7	教育学部	三枝崎　剛（琉球大学教育学部　准教授）	結び目の数学―ひもはほどけるか―	20	4	無　料	一般市民	7月28日(土)	教育学部本館106室	
15	8	理学部	前野　昌弘（理学部　物質地球科学科物理系准教授）	～物理の魅力を教えます2018～	50	48	無　料	中高校生・一般	8月5日（日）	理系複合棟	H29年度も開講
16	19	理学部	前野　昌弘（理学部　物質地球科学科物理系准教授）	琉大生による理科実験教室	100		無　料	小中高校生・一般	12月23日（日）	理系複合棟	H29年度も開講
17	21	理学部	漢那　洋子（理学部　海洋自然科学科　化学系　准教授）	理系女子・理系男子の世界―進路選択とキャリア形成―	20		無　料	一般（高校・大学生、指導者・保護者も可）	検討中	理系複合棟207講義室（仮）	H29年度も開講
18	1	理学部	中川　鉄水（理学部　海洋自然科学科　化学系　助教）	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	3・6・	無　料	市民一般・学生	7/19(@琉大千原ｷｬﾝﾊﾟｽ) 8/26(@石垣ｻﾃﾗｲﾄｷｬﾝﾊﾟｽ) 12月 予定(@国頭ｻﾃﾗｲﾄｷｬﾝﾊﾟｽ)	地域国際学習センター301講義室 石垣市市民保健部健康福祉センター	出前講座 各サテライトキャンパスにて実施予定
19	43	理学部	中川　鉄水（理学部　海洋自然科学科　化学系　助教）	身近な化学 Part①	30	20	無　料	高校生以下	7月1日（日）	地域国際学習センター301講義室	サテライト配信
20	44	理学部	中川　鉄水（理学部　海洋自然科学科　化学系　助教）	身近な化学 Part②	30		無　料	高校生以下	~~10月~~※12月以降 （具体的な日時は未定）		サテライト配信

連番	公開講座番号	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講者数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	対象者	開催期間	会場	備考
21	11	理学部	中村　崇（海洋自然科学科生物系　　准教授）	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生物塾	12	5	無　料	一般または 小学生以上（保護者同伴）	8月25日（土）	理学部528教室と野外	H28年度に開講実績あり
22	2	農学部	森山　克子（農学部健康栄養科学コース　准教授）	自分らしく輝くビューティ講座	5	6	¥3,180	ビューティをめざす包丁をもてない女子	5月31日（木）、6月14日（木） 6月28日（木）、7月5日（木）	教育学部本館306教室　他	H29年度も開講
23	38	農学部	森山　克子（農学部健康栄養科学コース　准教授）	3歳児のための子どもシェフクラブ	6	6	¥3,180	3歳児とその保護者	5月10日（木）、6月10日（日）、 7月8日（日）、8月11日（土）	教育学部本館306教室	H29年度も開講
24	41	農学部	森山　克子（農学部健康栄養科学コース　准教授）	3歳児からの子どもシェフクラブ（中学生：第2期生） ラクラク簡単栄養満点! 部活動生徒のお弁当づくり！	8	―	¥2,670	中学生	8月12日（日）	―	H29年度も開講 H30年度は受講生なしのため中止
25	59	農学部	森山　克子（農学部健康栄養科学コース　准教授）	巣立ちのための子どもシェフクラブ（中高校生）	6	―	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	児童施設のこども達	平成31年2月中旬～3月（3回）	―	H29年度も開講 H30年度は担当教員より申出があり中止
26	15	農学部	※世話人 外山　博英（農学部　教授）	発酵学	70	44	無　料	市民一般 琉球大学学生	9月12日（水）　～　9月21日（金）	農学部本館207教室	H29年度も開講 ※外部講師による講座
27	13	農学部	宮城　一菜（農学部健康栄養科学分野　准教授）	沖縄県産農産物の調理と加工 ～ 県産品のミラクルパワー ～	30	11	無　料	市民一般 琉球大学学生	9月11日（火）	教育学部324教室	H29年度も開講
28	18	農学部	森山　克子（農学部健康栄養科学コース　准教授）	働き盛りのための栄養講座・クッキング　part1～part3 ～仕事の活力を増進させるニュートレ～	8～10		¥2,670	30歳以上の男女	11月3日（土）、11月10日（土）	教育学部本館309教室、306教室	H29年度は受講者なしのため中止
29	10	工学部	渡嘉敷　健（工学部工学科　建築学コース　准教授）	音の体験教室	50人程度	12	無　料	市民一般	8月18日（土）	工学部2号館2階残響室、無響室及び小会議室	
30	40	工学部	比嘉　広樹（工学部工学科　電気システム工学コース　教授）	ロボットをつくろう	10	10	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	中学生	8月5日（日）	工学部3号館305コンピューター実習室	
31	47	工学部	金城　光永（工学部工学科　電子情報通信コース　准教授）	電子工作教室（ミニ四駆とLEDを題材に）	12	9	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学5・6年生	7月29日（日）	工学部2号館2階226教室	H29年度も開講
32	48	工学部	勢理客　勝則（工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室　―　ホバークラフト	10	10	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学1～3年生	7月28日（土）	工学部2号館2階226教室	
33	49	工学部	屋比久　祐盛（工学部技術部　技術専門職員）	夏休み工作教室　―　折り紙建築	8	6	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学5、6年生	7月28日（土）	工学部2号館技術部室	H29年度も開講
34	50	工学部	野原　幸則（工学部技術部　技術専門職員）	夏休み工作教室　―　固形燃料で走る船	14	10	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学5、6年生	7月28日（土）	工学部1号館1-122室	H29年度も開講
35	51	工学部	山下　大輔（工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室　―　電子回路の製作	14	14	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学5、6年生	7月28日（土）	工学部2号館226室	H29年度も開講
36	52	工学部	勢理客　勝則（工学部技術部 技術職員）	夏休み工作教室　―　電気工事を体験しよう	10	9	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学4－6年生	7月28日（土）	工学部2号館118室	
37	53	工学部	翁長　竜盛（工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室　―　デスクトップPC組み立て・LANケーブル作製体験	8	8	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	中学生	7月28日（土）	工学部2号館217-2号室	
38	54	工学部	勢理客　勝則（工学部技術部 技術職員）	夏休み工作教室　―　ミラクル万華鏡	10	8	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学1－3年生	8月4日（土）	工学部2号館226室	H29年度も開講
39	55	工学部	大城　成栄（工学部技術部　技術専門職員）	夏休み工作教室　―　合金を溶かして風鈴づくり	8	6	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学5、6年生	8月4日（土）	工学部附属工作工場内	H29年度も開講
40	56	工学部	勢理客　勝則（工学部技術部 技術職員）	夏休み工作教室　― まわりつづけるコマ	10	9	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学4－6年生	8月4日（土）	工学部2号館226室	H29年度も開講
41	57	工学部	渡慶次　高也（工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室　―　紙コップで作るポータブルスピーカー	8	6	無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	中学生	8月4日（土）	工学部2号館217-2号室	H29年度も開講
42	12	工学部	長田　克之（工学部技術部　技術専門職員）	真空管アンプの製作	8	7	¥4,210	市民一般	9月1日（土）、8日（土）、15日（土）、 22日（土）	工学部2号館226室	H29年度も開講
43	58	工学部	渡慶次　高也（工学部技術部　技術職員）	クリスマスイルミネーション工作教室　―　メロディ付クリスマスツリー	8		無　料 （ただし、材料費の徴収あり）	小学生高学年	12月8日（土）	工学部2号館226室	
44	9	工学部	姜　東植（工学部　准教授）	シニアのための健康サッカー講座	30		無　料	40歳以上の サッカー愛好者	8月10日～4月5日	琉球大学サッカー場	H29年度も開講
45	61	国際地域創造学部	平野　典男（国際地域創造学部国際地域創造学科　教授）	ストリートワークアウト体験入門～新しいスポーツの魅力を沖縄から世界へ～	20	8	無　料	高校生以上の一般市民	6月3日（日）、6月10日（日）、 6月17日（日）	大学会館3階特別会議室	※外部講師による講座
46	63	医学部附属病院	清水 雄介(医学部附属病院形成外科 教授)	形成外科での「かたちの治療」	100		無　料	市民一般	9月1日（土）	共通教育棟1号館118教室	サテライト配信
47	62	地域連携推進機構	小島　肇（地域連携推進機構　特命准教授）	社会人のためのデジタルマーケティング超入門	各10人 程度		無　料	市民一般	6月15日(金)、6月22日（金）、 6月29日（金）	那覇サテライトキャンパス	サテライト配信
48	64	地域連携推進機構	宮里　大八（地域連携推進機構　特命准教授）	政策立案能力基礎プログラム	20	4	¥4,210	行政、企業、NPO、地域づくりを担う団体、学生、企業家など	7月13日（金）～8月4日（土）	地域国際学習センター301講義室　他	
49	65	地域連携推進機構	宮里　大八（地域連携推進機構　特命准教授）	地域子ども総合支援基礎講座	100		無料	地域支援に関わる作業療法士、教育関係者、行政関係者、公的支援機関従事者、NPO職員、学生等	9月1日（土）～10月6日（土）	工学部1号館221教室	
50	66	地域連携推進機構	宮里　大八（地域連携推進機構　特命准教授）	地域子ども総合支援者養成講座	50		¥3,180	学校現場や行政担当者、NPO職員	9月1日（土）～12月2日（日）	工学部1号館221教室	
51	67	地域連携推進機構	宮里　大八（地域連携推進機構　特命准教授）	地域の子どもを支援するインクルーシブ教育推進人材の育成プログラム	30		¥10,000	作業療法士の有資格者	9月1日（土）～12月15日（土）	工学部1号館221教室	
52	68	地域連携推進機構	宮里　大八（地域連携推進機構　特命准教授）	沖縄型医工連携基礎プログラム	9		¥4,210	県内のヘルスケア産業（病院、医療機器開発企業、介護・福祉関連、ものづくり関連企業）などに従事している者	10月22日～11月2日	地域創生総合研究棟3階ミーティングルーム、中頭病院、浦添総合病院	
53	69	地域連携推進機構	宮里　大八（地域連携推進機構　特命准教授）	ブロックチェーンパイロットコース	12		¥4,210	証券取引、Fintech、不動産取引、シェアリングエコノミー、個人認証、電子政府などに興味関心を持っている者	12月1日～2月10日	工学部1号館321教室、医学部臨床講義棟1階小講義室	

※一般コース：53講座

学内地連第　　号
平成３０年　　月　日

グローバル教育支援機構長
渡名喜　庸安　　殿

地域連携推進機構長
須加原　一博
（公印省略）

大学開放事業等への協力について（依頼）

平素より地域連携推進機構の運営にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。本機構は、引き続き公開講座・公開授業及び琉球大学サテライトキャンパスの運営を行うこととしております。

さて、本機構では本年度も69の公開講座を実施しており、昨年度は100講座、2,352人の受講者を受入れてきました。また、平成15年度より、旧大学教育センターの協力をいただいており、本学の正規の授業科目を公開授業として開放し、同年55科目の提供を始め、昨年度には、114科目505人の受講生を受け入れているところです。併せて、平成２９年１２月２１日付、学内地連第373号にてご依頼さしあげた標記のことについて、今年度は115科目の提供をいただきました。

また、昨年度にはサテライトキャンパスへのビデオ会議システムを活用した、公開講座等の配信及び出前講座を延べ75回実施し、地域の学び直しの充実強化に努めております。

一方で、昨今の大学改革においては、平成16年度の国立大学法人化後、大学の第3の使命として「地域貢献」が位置付けられました。また、昨年度8月末の概算要求時においては、本学は、重点支援①として、主として、人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組等を第3期の機能強化の中核とする国立大学法人として位置付けられたところです。

そのような中、今後、地域連携推進機構では、第３期に掲げた中期目標・計画の着実な推進と、教育・研究成果の地域への更なる還元及び地域を志向した大学となるよう努めてまいりますので、貴機構におかれましては、下記の事項について、格別なるご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

記

１．本学共通教育科目において、より多くの科目が、公開授業の対象となるよう、貴機構から各教員へ、積極的な公開授業への登録の協力要請をお願いしたい。特に、プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞した教員の講義等、より広く一般の方に開放した方が良い講義等への積極的な要請をお願いしたい。※平成３０年度公開授業一覧は別添（別紙１）のとおり。

２．上記１で協力いただける公開授業の中で、より多くの講義を琉球大学サテライトキャンパスへ配信するためにも、希望する科目については、同機器が設置されている講義室（共通教育棟 1-118）を優先的に利用できるよう、配慮をお願いしたい。※琉球大学サテライトキャンパス及びサテライト教育システムの概要は別添（別紙２）のとおり。

【本件担当】
総合企画戦略部地域連携推進課
地域連携推進係　宮平
内線：8019

平成30年度公開授業一覧

※黄色セルはサテライト配信予定

授業番号	分類	授業科目名	学期	曜日時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部･学科等	受講者数	定員
1	共通教育等科目	現代社会のしくみ	前学期	木2	人文社会学部	野入　直美	人文社会学部人間社会学科　准教授	3名	10名
2	共通教育等科目	平和論	前学期	火4	人文社会学部	星野　英一　他	人文社会学部国際法制学科　教授　他	3名	10名
3	共通教育等科目	総合環境学概論	前学期	金3	国際地域創造学部	山城　新　他	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授　他	2名	5名
4	共通教育等科目	環境エネルギー計画	前学期	火5	工学部	堤　純一郎	工学部工学科　教授	0名	10名
5	共通教育等科目	運動･スポーツ科学演習(ﾏﾗｿﾝ)	前学期	月5	医学部	尾尻　義彦	医学部保健学科　助教	0名	5名
6	共通教育等科目	海洋地質学	前学期	月3	理学部	古川　雅英	理学部物質地球科学科　教授	3名	10名
7	共通教育等科目	海洋の科学	前学期	火1	理学部	松本　剛	理学部物質地球科学科　教授	2名	10名
8	共通教育等科目	海洋の科学	前学期	水7	理学部	松本　剛	理学部物質地球科学科　教授	1名	10名
9	共通教育等科目	天体観測を通して学ぶ宇宙	前学期	集中講義	理学部	松本　剛	理学部物質地球科学科　教授	8名	10名
10	共通教育等科目	インドネシア語基礎Ⅰ	前学期	火･木6	共通教育	與那城　常和子	共通教育外国語科目　非常勤講師	2名	10名
11	共通教育等科目	インテンシブドイツ語I	前学期	火･金6	共通教育	Till Webar、吉井　巧一	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授　他	1名	5名
12	共通教育等科目	インテンシブフランス語I	前学期	火･金2	国際地域創造学部	デルバール･フランク、宮里　厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授　他	1名	5名
13	共通教育等科目	フランス語会話入門I	前学期	火3	国際地域創造学部	デルバール･フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	3名	5名
14	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅲ	前学期	木2	国際地域創造学部	宮里　厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
15	共通教育等科目	インテンシブスペイン語Ⅰ	前学期	火･金2	国際地域創造学部	酒井アルベルト清、福地恭子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授　他	0名	5名
16	共通教育等科目	食料･農村･環境概論	前学期	木6	農学部	中野　拓治	農学部地域農業工学科　教授	1名	5～10名
17	共通教育等科目	沖縄の農業･農村と農地水環境	前学期	木2	農学部	中野　拓治	農学部地域農業工学科　教授	3名	5～10名
18	共通教育等科目	情報科学演習	前学期	木1	理学部	中川　鉄水	理学部海洋自然科学科　助教	0名	10名
19	共通教育等科目	物理学Ⅰ	前学期	金2	理学部	稲岡　毅	理学部物質地球科学科　教授	0名	5名
20	共通教育等科目	化学Ⅰ	前学期	月5	理学部	漢那　洋子	理学部海洋自然科学科　准教授	1名	10名
21	共通教育等科目	物理学入門Ⅰ	前学期	火2	理学部	安田　千寿	理学部物質地球科学科　准教授	4名	5名
22	共通教育等科目	地域企業(自治体)お題解決プログラム	前学期	火5	地域連携推進機構	松本　剛、宮里　大八	理学部物質地球科学科　教授 他	0名	10名
23	共通教育等科目	海外キャリア形成入門	前学期	集中講義	グローバル教育支援機構	遠藤　聡志　他	グローバル教育支援機構キャリア教育支援部門　センター長･教授　他	2名	10名
24	専門教育科目	人間関係論	前学期	月1	人文社会学部	田中　寛二	人文社会学部人間社会学科　准教授	1名	5名
25	専門教育科目	カウンセリング	前学期	木1	人文社会学部	田中　寛二	人文社会学部人間社会学科　准教授	2名	10名
26	専門教育科目	基礎労働法	前学期	火4	人文社会学部	戸谷　義治	人文社会学部国際法制学科　准教授	0名	10名
27	専門教育科目	琉球史概論Ⅰ	前学期	木2	人文社会学部	豊見山　和行	人文社会学部琉球アジア文化学科　教授	10名	25名
28	専門教育科目	琉球民俗学概論Ⅰ	前学期	水2	人文社会学部	赤嶺　政信	人文社会学部琉球アジア文化学科　教授	13名	10名
29	専門教育科目	経済学概論	前学期	木2	国際地域創造学部	越野 泰成	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	4名	10名
30	専門教育科目	社会人類学概論Ⅰ	前学期	木5	国際地域創造学部	稲村　務	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	7名	10名
31	専門教育科目	マクロ経済学	前学期	火･木3	国際地域創造学部	堀　勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	0名	5名
32	専門教育科目	社会科学のためのゲーム論入門	前学期	水5	国際地域創造学部	堀　勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	0名	5名
33	専門教育科目	社会科学のためのゲーム論入門	前学期	水7	国際地域創造学部	堀　勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	0名	5名
34	専門教育科目	口頭英語表現Ⅰ	前学期	月3	国際地域創造学部	宮平　勝行	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	1名	5名
35	専門教育科目	英米文学概論	前学期	月7	国際地域創造学部	石川　隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	3名	5名
36	専門教育科目	フランス語表現法Ⅰ	前学期	火4	国際地域創造学部	デルバール･フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
37	専門教育科目	日仏翻訳通訳入門	前学期	火5	国際地域創造学部	デルバール･フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
38	専門教育科目	フランス語文化研究Ⅰ	前学期	木1	国際地域創造学部	デルバール･フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
39	専門教育科目	エコツーリズム入門	前学期	木3	国際地域創造学部	大島　順子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
40	専門教育科目	広告論	前学期	月2	国際地域創造学部	王　怡人	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	1名	5名
41	専門教育科目	ギター　Ⅰ	前学期	金3	教育学部	服部　洋一	教育学部音楽教育専修　教授	2名	5名
42	専門教育科目	合唱Ⅰ	前学期	金4	教育学部	服部　洋一	教育学部音楽教育専修　教授	5名	5名
43	専門教育科目	総合舞台芸術演習	前学期	木5	教育学部	服部　洋一　他	教育学部音楽教育専修　教授　他	1名	10名
44	専門教育科目	民族音楽学	前学期	月4	教育学部	岡田　恵美	教育学部音楽教育専修　准教授	6名	5名
45	専門教育科目	授業技術	前学期	月5	教育学部	吉田　安規良　他	教育学研究科高度教職実践専攻　教授　他	1名	5名
46	専門教育科目	理科教育法A[1組]	前学期	木6	教育学部	吉田　安規良	教育学研究科高度教職実践専攻　教授	0名	5名
47	専門教育科目	物理数学Ⅰ	前学期	火3	理学部	稲岡　毅	理学部物質地球科学科　教授	1名	5名
48	専門教育科目	熱力学	前学期	火4	理学部	前野　昌弘	理学部物質地球科学科　准教授	0名	5名
49	専門教育科目	熱帯生物科学概論	前学期	火5	理学部	広瀬　裕一	理学部海洋自然科学科　教授	4名	5名
50	専門教育科目	海洋無機化学	前学期	月2	理学部	土岐　知弘	理学部海洋自然科学科　准教授	0名	10名
51	専門教育科目	フィジカルアセスメント	前学期	金3～4	医学部	眞榮城　千夏子　他	医学部保健学科　講師　他	0名	2～3名
52	専門教育科目	生態学･環境学	前学期	木1	農学部	辻　瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科　教授	1名	5名
53	専門教育科目	作物学	前学期	水2	農学部	諏訪　竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科　准教授	0名	10名
54	専門教育科目	土壌環境科学	前学期	金3	農学部	金城　和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科　准教授	2名	10名
55	専門教育科目	森林微生物学	前学期	水2	農学部	亀山　統一	農学部亜熱帯農林環境科学科　助教	1名	5名
56	大学院	生活科教育研究	前学期	火5	教育学研究科	白尾　裕志	教育学研究科高度教職実践専攻　准教授	0名	10名
57	共通教育等科目	環境の哲学	後学期	月3	人文社会学部	寺石　悦章	人文社会学部人間社会学科　教授	3名	5名

授業番号	分類	授業科目名	学期	曜日時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部・学科等	受講者数	定員
58	共通教育等科目	平和論	後学期	火4	人文社会学部	星野　英一　他	人文社会学部国際法制学科　教授　他	4名	10名
59	共通教育等科目	環境と文学	後学期	火2	国際地域創造学部	山城　新	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	0名	5名
60	共通教育等科目	インドネシア語基礎Ⅱ	後学期	火・木6	共通教育	與那城　常和子	共通教育外国語科目　非常勤講師	0名	10名
61	共通教育等科目	インテンシブドイツ語Ⅱ	後学期	火・金6	共通教育	Till Webar、吉井　巧一	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授　他	0名	5名
62	共通教育等科目	インテンシブフランス語II	後学期	火・金2	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授　他	0名	5名
63	共通教育等科目	フランス語会話入門II	後学期	火3	国際地域創造学部	デルバール・フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
64	共通教育等科目	インテンシブフランス語IV	後学期	木2	国際地域創造学部	宮里　厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	1名	5名
65	共通教育等科目	インテンシブスペイン語Ⅱ	後学期	火・金2	国際地域創造学部	酒井アルベルト清、福地　恭子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授　他	0名	5名
66	共通教育等科目	キャリア関係特別講義Ⅳ	後学期	集中講義	国際地域創造学部	荒川　雅志	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授	8名	10名
67	共通教育等科目	キャリア関係特別講義Ⅲ	後学期	集中講義	国際地域創造学部	荒川　雅志	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授	0名	10名
68	共通教育等科目	琉球の自然保護	後学期	木5	理学部	横田昌嗣　他 8名	理学部海洋自然科学科　生物系　教授　他	2名	10名
69	共通教育等科目	物理学Ⅱ	後学期	金2	理学部	稲岡　毅	理学部物質地球科学科　教授	1名	5名
70	共通教育等科目	物理学入門Ⅱ	後学期	火2	理学部	安田　千寿	理学部物質地球科学科　准教授	3名	5名
71	共通教育等科目	運動・スポーツ科学演習（マラソン）	後学期	月5	医学部	尾尻　義彦	医学部保健学科　助教	0名	5名
72	共通教育等科目	環境影響評価概論	後学期	木5	工学部	堤　純一郎	工学部工学科　教授	0名	10名
73	共通教育等科目	教育政策史	後学期	火2	地域連携推進機構	柴田　聡史	地域連携推進機構生涯学習推進部門　准教授	0名	5名
74	共通教育等科目	地域企業(自治体)お題解決プログラム	後学期	火5	地域連携推進機構	松本　剛、宮里　大八	理学部物質地球科学科　教授 他	2名	10名
75	共通教育等科目	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ（星空案内人養成講座）	後学期		地域連携推進機構	松本　剛、宮里　大八	理学部物質地球科学科　教授 他	15名	30名
76	共通教育等科目	キャリアデザインとジェンダーⅡ	後学期	木7	地域連携推進機構	喜納　育江、宮里　大八	ジェンダー協働推進室　教授　他	2名	10名
77	共通教育等科目	総合特別講義Ⅵ クラウドファンディング実践講座	後学期	集中講義	地域連携推進機構	宮里　大八	地域連携推進機構　特命准教授	2名	10名
78	共通教育等科目	経済政策特殊講義Ⅳ 社会的インパクト投資基礎概論	後学期	集中講義	地域連携推進機構	高畑　明尚、宮里　大八	国際地域創造学部　教授　他	1名	10名
79	共通教育等科目	総合特別講義Ⅴ ソーシャルキャピタル構築講座（島マス記念塾 in 琉大）	後学期	集中講義	地域連携推進機構	本村　真、宮里　大八	人文社会学部　教授　他	6名	10名
80	共通教育等科目	大学で何を学ぶか	後学期	水3	グローバル教育支援機構	狩俣　繁久	グローバル教育支援機構　副機構長	—	—
81	専門教育科目	心の科学	後学期	月1	人文社会学部	田中　寛二	人文社会学部人間社会学科　准教授	1名	5名
82	専門教育科目	非行と犯罪の心理学	後学期	水1	人文社会学部	田中　寛二	人文社会学部人間社会学科　准教授	1名	5名
83	専門教育科目	展開労働法	後学期	未定	人文社会学部	戸谷　義治	人文社会学部国際法制学科　准教授	0名	10名
84	専門教育科目	国際政治学	後学期	火・金2	人文社会学部	我部　政明	人文社会学部国際法制学科　教授	2名	10名
85	専門教育科目	琉球民俗学概論Ⅱ	後学期	水2	人文社会学部	赤嶺　政信	人文社会学部琉球アジア文化学科　教授	6名	10名
86	専門教育科目	琉球史概論Ⅱ	後学期	木2	人文社会学部	大浜　郁子	人文社会学部琉球アジア文化学科　准教授	5名	30名
87	大学院	日米関係	後学期	木6	法科大学院	我部　政明	人文社会学部国際法制学科　教授	1名	5名
88	専門教育科目	口頭英語表現Ⅱ	後学期	木3	国際地域創造学部	宮平　勝行	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	1名	5名
89	専門教育科目	現代イギリス文学	後学期	木4	国際地域創造学部	石川　隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	1名	5名
90	専門教育科目	イギリス文学演習II	後学期	木7	国際地域創造学部	石川　隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	0名	5名
91	専門教育科目	英米文学概論	後学期	木3	国際地域創造学部	石川　隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	3名	5名
92	専門教育科目	ことばの構造と意味	後学期	木2	国際地域創造学部	吉本　靖	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	1名	5名
93	専門教育科目	マーケティング概論	後学期	火7	国際地域創造学部	王　怡人	国際地域創造学部国際地域創造学科　教授	2名	5名
94	専門教育科目	環境教育論	後学期	金2	国際地域創造学部	大島　順子	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	0名	5名
95	専門教育科目	フランス語表現法Ⅱ	後学期	火1	国際地域創造学部	デルバール・フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
96	専門教育科目	フランス語作文	後学期	月3	国際地域創造学部	デルバール・フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
97	専門教育科目	フランス語特殊講義	後学期	火5	国際地域創造学部	デルバール・フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科　准教授	2名	5名
98	専門教育科目	天文学序説	後学期	火3	理学部	松本　剛	理学部物質地球科学科　教授	2名	5名
99	専門教育科目	物理数学IV	後学期	水2	理学部	稲岡　毅	理学部物質地球科学科　教授	1名	5名
100	専門教育科目	物理化学Ⅳ	後学期	火1	理学部	漢那　洋子	理学部海洋自然科学科　准教授	0名	10名
101	専門教育科目	物性物理化学	後学期	火2	理学部	玉城　喜章	理学部海洋自然科学科　准教授	0名	5名
102	専門教育科目	熱帯生物生産学概論	後学期	火5	理学部	竹村　明洋	理学部海洋自然科学科　教授	1名	5名
103	専門教育科目	生活援助看護技術Ⅰ	後学期	火・金3～5前半	医学部	豊里　竹彦　他	医学部保健学科　教授　他	0名	5～6名
104	専門教育科目	マルチメディア情報処理	後学期	木3	工学部	長山　格	工学部工学科　准教授	0名	10名
105	専門教育科目	確率及び統計	後学期	水1	工学部	小野　尋子	工学部工学科　准教授	2名	5名
106	専門教育科目	進化生態学	後学期	水1	農学部	辻　瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科　教授	0名	5名
107	専門教育科目	熱帯エネルギー作物学	後学期	木2	農学部	諏訪　竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科　准教授	2名	10名
108	専門教育科目	環境土壌学	後学期	金1	農学部	金城　和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科　准教授	1名	10名
109	専門教育科目	森林保護学	後学期	木3	農学部	亀山　統一	農学部亜熱帯農林環境科学科　助教	3名	7名
110	専門教育科目	環境情報学	後学期	木5	農学部	中野　拓治	農学部地域農業工学科　教授	0名	5～10名
111	専門教育科目	農村・農地環境概論	後学期	金4	農学部	中野　拓治	農学部地域農業工学科　教授	3名	5～10名
112	専門教育科目	農村農地整備学	後学期	木2	農学部	中野　拓治	農学部地域農業工学科　教授	2名	5～10名
113	専門教育科目	教育の社会史	後学期	火4	地域連携推進機構	背戸　博史	地域連携推進機構生涯学習推進部門　教授	1名	5名
114	専門教育科目	緩和ケア特別演習	後学期	木6	医学部	照屋　典子	医学部保健学科　助教	5名	6名
115	専門教育科目	緩和ケア特論	後学期	木5	医学部	照屋　典子	医学部保健学科　助教	3名	6名

琉球大学サテライトキャンパスについて

別紙3

1　琉球大学サテライトキャンパス

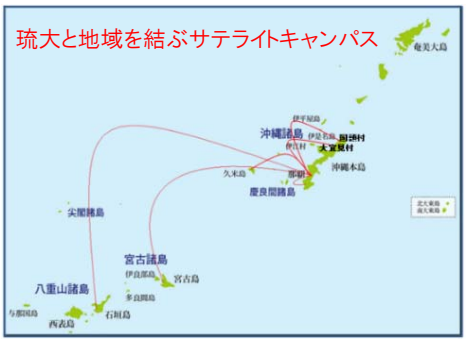
琉球大学では、~~大学と~~自治体と~~が~~連携・協力し~~、~~地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め~~る大学を支援し、~~地域の再生・活性化の拠点となる大学の形成を目的とした~~文部科学省の補助事業~~「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省）に~~本学~~申請し、~~の~~「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）（以降「ちゅら島事業」という）」事業が平成２５年度に採択されました。

ちゅら島事業では、県内の島嶼部を含む複数の地域に琉球大学サテライトキャンパスを設置し、「能力強化プログラム（自治体職員の政策形成能力強化等）」や「学び直しの機会拡充プログラム（公開講座等の実施）」を提供することで、地域との共同による地域人材の育成を推進し、大学と地域がより結びついた学びのコミュニティモデルの構築を推進することを目指して平成２５年度から平成２７年度にかけて以下の６カ所の施設内に「琉球大学サテライト　キャンパス」を設置しました。

（１）那覇キャンパス　：那覇市牧志駅前ほしぞら公民館（那覇市安里２丁目１番１号）
（２）宮古島キャンパス：宮古島市中央公民館（宮古島市平良字下里３１５）
（３）石垣キャンパス　：石垣市立図書館（石垣市浜崎町１丁目１番地）
（４）久米島キャンパス：久米島町具志川農村環境改善センター（久米島町字仲泊７３０番地）
（５）国頭キャンパス　：国頭村民ふれあいセンター（国頭村辺土名112）
（６）大宜味キャンパス：大宜味村農村活性化センター（大宜味村字根路銘1373）

那覇キャンパス

宮古島キャンパス



石垣キャンパス

久米島キャンパス

国頭キャンパス

大宜味キャンパス

2　サテライト教育システム（別添１）

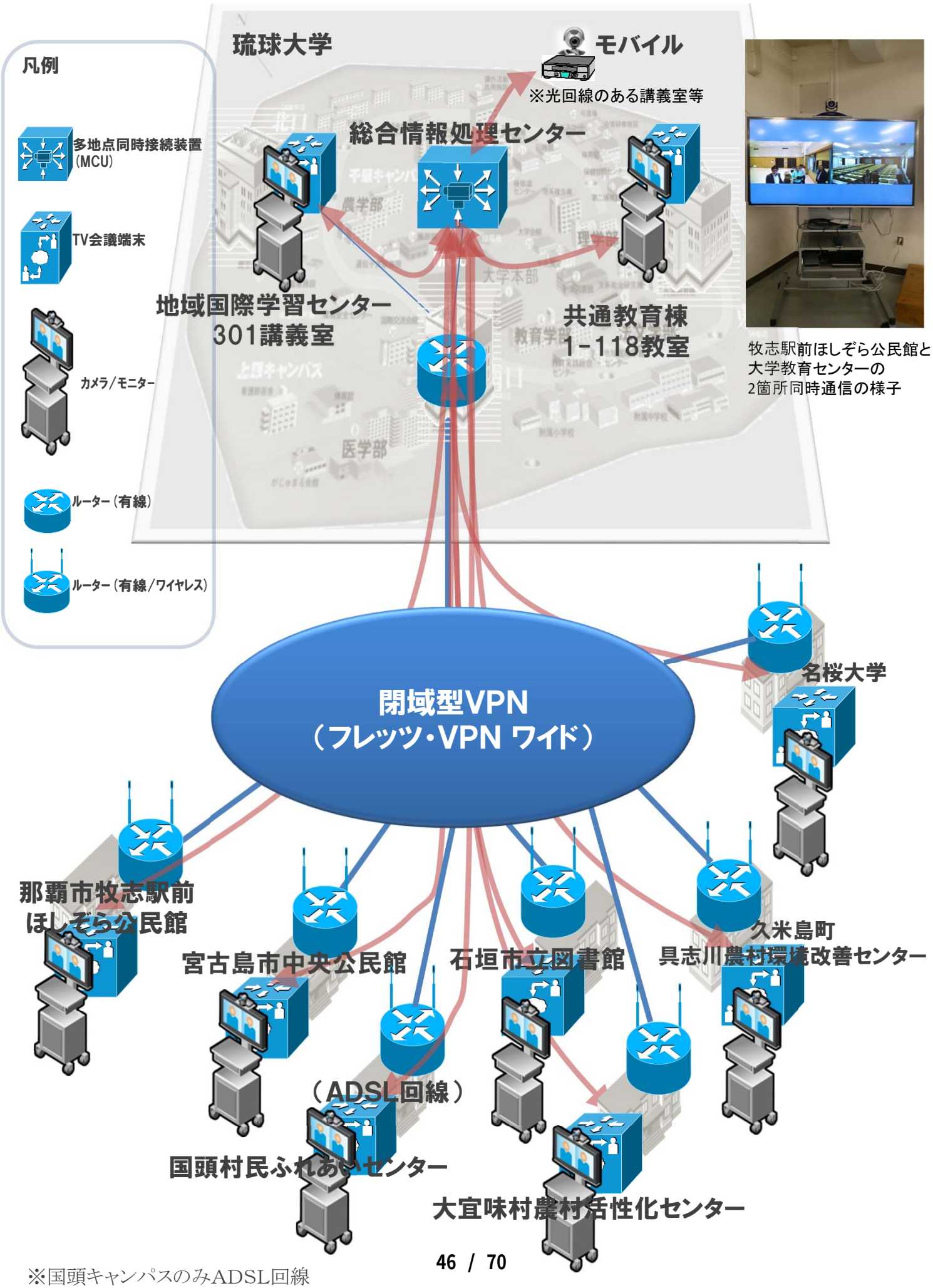
琉球大学サテライトキャンパスには、当該サテライトキャンパスと本学（地域国際学習センター３０１講義室及び共通教育棟１１８教室）とをインターネットを活用してつなぐ「サテライト教育システム（ビデオ会議システム）」を設置しました。これにより、琉球大学主催の公開講座や公開授業、シンポジウム等を各サテライトへライブ配信したり、本学と各サテライトとの双方向でのやりとりが可能です。

3　琉球大学サテライトキャンパスの活用

平成３０年度は、本学の公開講座及び公開授業の一部を配信したり、本学の教職員や学生が各キャンパスに出張し、出前での公開講座を実施しました。

（配信コンテンツ）
・公開授業「海洋の科学（理学部）」
・公開講座「市民ランナーのためのランニング科学講座（医学部）」　等
（出前講座）
・水素のチカラ　～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～　等

サテライト教育システム構成概略図



※国頭キャンパスのみADSL回線

琉球大学における正規の授業を一般市民に公開すること
に関する申合せ

平成２９年１２月１９日
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育支援機構会議

この申合せは，琉球大学の正規の授業を一般市民に公開すること（以下「授業の公開」という。）に関し必要な事項を定める。

１　授業の公開は，正規の授業の「共通教育等科目」及び「専門教育科目」のうち，担当教員が申し出たもの（以下「公開授業」という。）について行う。

２　公開授業を聴講できる一般市民の定員は，若干名とする。なお，聴講する一般市民を募集する際は，「本学の学生のみで教室の収容定員を超える場合は，聴講できないことがある。」旨を明記する。

３　公開授業とする授業科目については，時間割又はシラバスへの記載あるいはその他の方法により事前に学生へ周知する。

４　公開授業を聴講する一般市民への単位の認定は行わない。

５　公開授業は，公開講座の位置づけとし，企画・運営等は地域連携推進機構がグローバル教育支援機構と連携して実施する。

６　この申合せの改廃は，グローバル教育支援機構会議の議を経てグローバル教育支援機構長が行う。

附　則

１　この申合せは，平成29年12月19日から実施する。

２　正規の授業を一般市民に公開することに関する申合せ（平成１４年１月２２日全学教育委員会決定）は，廃止する。

市民シンポジウム
（第99回琉大21世紀フォーラム）

【報告１】
平成３０年１１月１５日
総合企画戦略部 地域連携推進課　作成

【テーマ】

次世代育成の基盤整備に向けて
～沖縄型ＳＴＥＭ教育のイノベーション創出～

1部　基調講演

日 時　12月9日（日）14：30～17：30

会 場　沖縄県立博物館・美術館講堂

入場料　無　料

プログラミング教育に関心がある皆さん必見です！

【講 演 者】

宮野（みやの）　英次（えいじ）　氏

【プロフィール】

1995年11月	九州大学大学院工学研究科情報工学専攻 博士後期課程修了・博士（工学）
2013年 4月～	九州工業大学大学大学院情報工学研究院教授
2014年10月～	九州工業大学理数教育支援センター 副センター長／飯塚分室長
2018年4月～	九州工業大学高大接続・教育連携機構 STEM教育推進部門　副部門長
2018年4月～	九州工業大学大学院情報工学研究院　副研究院長／副情報工学府長

2部　パネルディスカッション

- 産　INSIGHT LAB 株式会社、一般社団法人ツクル 代表理事　大森　洋介　氏
- 学　琉球大学教育学部　准教授　岡本 牧子
- 官　沖縄県情報産業振興課　課長　谷合 誠　氏
- 民　CoderDojo Okinawa、一般社団法人沖縄STEM教育センター 理事　比嘉 智明　氏

コメンテーター：基調講演者　宮野　英次　氏

モデレーター　：琉球大学地域連携推進機構 特命准教授　宮里大八

【フォーラム概要】

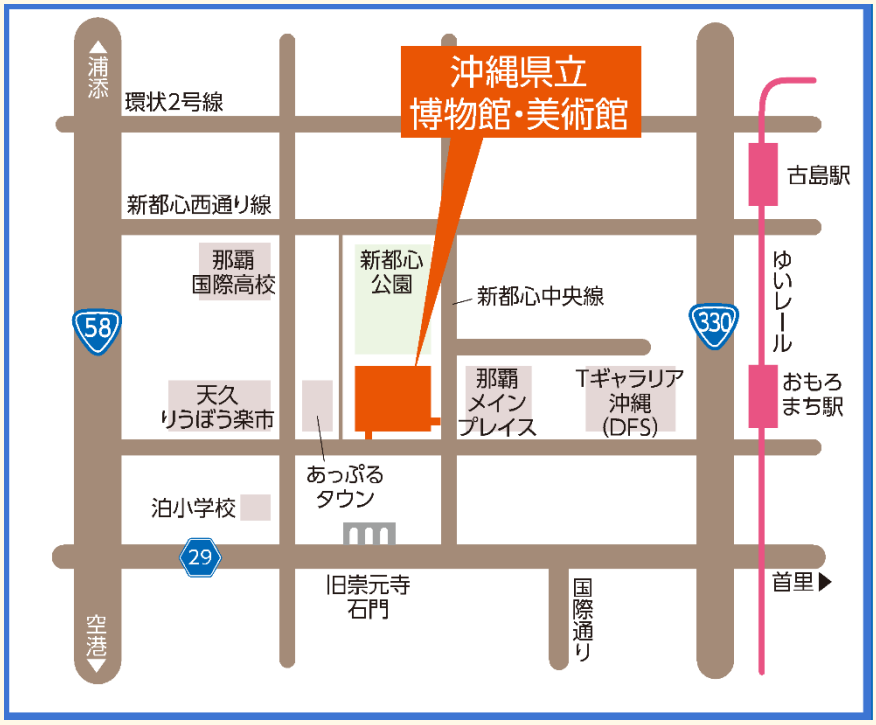
本フォーラムでは、基調講演とパネルディスカッションの2部構成で行います。基調講演では、九州工業大学のSTEM教育推進部門副部門長の宮野英次教授から九州工業大学が取り組む、小・中学生・高校生の科学への興味・好奇心を喚起し、将来に渡って科学に携わっていける人材育成を目的として行う実験・体験学習の事例を紹介します。また、小・中学校等における情報教育や情報機器を利用したICT教育の支援を行う「情報教育支援士」の資格認定についても紹介します。

パネルディスカッションでは、全国及び沖縄県内で取り組まれているSTEM教育の事例を報告してもらい、2020年からはじまる教育の大改革であるプログラミング教育の必修化に向けて、教員が新たに必要となる知見に関する研修機会の提供やキャリア教育への支援などの在り方について提言をすることを目的とします。

主催：国立大学法人琉球大学
共催：一般社団法人国立大学協会九州地区支部会議
お問い合わせ　※要事前申込　琉球大学総合企画戦略部　地域連携推進課　産学連携推進係
ＴＥＬ：０９８－８９５－８０３１　　ＦＡＸ：０９８－８９５－８１０２

ACCESS MAP 沖縄県立博物館・美術館

所在地 ：〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号



路線バスをご利用の場合

那覇空港発

- 99番線：おもろまち3丁目バス停下車 → 徒歩 5 分
- 120番線：上之屋バス停下車 → 徒歩10 分

市内線

- 3・7・10番線：県立博物館前バス停下車
- 6番線：那覇メインプレイス東口バス停下車 → 徒歩 5 分

モノレールをご利用の場合

- おもろまち駅下車 → 徒歩 10 分

車・タクシーをご利用の場合

- 那覇空港から 約30分

駐車場（無料）

一般駐車場：158台（うち身体障がい者用 4 台）
大型バス駐車場：10 台
駐輪場：25 台

カーナビをご利用の方

カーナビマップコード：33188675

琉球大学市民シンポジウム・第99回琉大21世紀フォーラム　参加申込書

	企業・団体名	氏名
1		
2		
3		
4		
5		
6		

当日受付にて混雑を避けるため、事前申込みにご協力ください。
ご参加予定の企業・団体名、参加者氏名をご記載の上、12月6日（木）までに下記まで、FAXもしくはメールにてお申込みください。

【個人情報について】
本フォーラム申込み等で取得した個人情報については、本学の個人情報管理規則に基づき適切に管理し、本フォーラムの参加者への案内・運営以外の目的には使用いたしません。

お問い合わせ：琉球大学　総合企画戦略部　地域連携推進課　産学連携推進係
TEL：098－895－8031　FAX：098－895－8102
Email：sangaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

【報告２】
平成３０年１１月７日
産学官連携部門会議 承認

九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金（ギャップ資金）採択シーズへの
支援手続きについて

●シーズ名：慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールの開発
（医学部附属病院　血液浄化療法部　古波蔵健太郎先生）

●寄付企業（２社）・寄付金額（１００万円）
琉球銀行５０万円、沖縄銀行５０万円

●今後の手続き
１．企業からの寄附金受け入れ
※原則、受け入れた寄附金から５％のオーバーヘッドが徴収される。
２．研究者への予算配分
※大学から支援する予算は大学運営費のため、複数年度の執行ができない。
そのため、今回執行する予算については、研究者と事前協議のうえ、執行する必要がある。

九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金（ギャップ資金）
シーズ事業化検証計画書

1．申請者情報　　（記載日:平成　30年6月8日）

研究者氏名	古波蔵 健太郎	生年月日	昭和43年3月7日
研究者所属	（所属）　琉球大学医学部附属病院　血液浄化療法部・	（職名）　部長・准教授	
所属場所	住所 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地 国立大学法人琉球大学医学部附属病院	連絡先	TEL　098-895-1341 FAX e-mail　kohagura@med.u-ryukyu.ac.jp
協力者 （申請者以外に協力者がいる場合）	（所属・職名）国立研究開発法人産業技術総合研究所　主任研究員（氏名）根本　直		
	（所属・職名）株式会社さうすウェーブ　代表取締役　（氏名）前田　憲		
	（所属・職名）　（氏名）		

発明 （事業シーズに係るもの、周辺特許を含む）	発明の名称	出願番号・特許番号	発明者	出願人	出願日

2．事業シーズの内容

事業シーズの名称	慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールの開発
事業化構想	慢性腎臓病の重症化予防を効果的に行うためには個々の患者の特性に対応したアプローチを多職種で連携して行う必要がある。この目的に特化したデジタル端末機器を研究開発し、これを用いた診療スタイルのプロトタイプをパッケージとしてクリニックレベル、基幹病院レベル、自治体の保健事業レベルへの提供を目指す。この取り組みを通じて削減された透析医療に関わる医療費(1人あたり約500万円/年)を原資として、デジタルツールを用いた診療スタイルをパッケージとして導入したコストとして利益を得ることを目指すことで全てのステークホルダーにとってwin/winの仕組みを提案することを目指す。 デジタルツールは以下の3つよりなる。 1) 慢性腎臓病治療におけるチーム医療や病診連携において共有が必要な情報を各専門職(医師、看護師、栄養士、薬剤師) が活用しやすい形に視覚化、また個別アプローチの効果を経時的に見える化しPDCAサイクルによる進捗マネージメントができるデジタルツールを試作する。 2) 患者のライフスタイルデータをセルフケアに活かすための機能とともに医療関係者とその情報を共有するための機能作成及び機器とのIoT連携を検討する。 3) 各診療現場における患者集団のデータ収集とアルゴリズム設定により優先度の高い患者を抽出するシステムの開発。 さらに病態評価における腎虚血マーカーの探索研究を行う

3. 検証の内容

初期評価・検証	慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールを現場のニーズに対応できるようにカスタマイズされているか、機能は正常に動作するかを評価・検証する。 1. 1-1慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールのカスタマイズ 要件定義:個別の病態、病態に対応した治療計画、PDCAサイクルによる経時的な治療内容の推移をわかりやすく見える化することで連携を容易にし診療をサポートする機能を有すること 設計:既に構築した基本機能をニーズに対応できるように画面・インターフェイス・機能設計のカスタマイズを行う 製造:設計に基づいたシステム再構築 検証:ヒアリングを行った医療関係者と患者にカスタマイズされた機能の評価を行ってもらう 1-1-a医師のための病態に基づいた治療計画とPDCAサイクルによる運用機能 設計:病態と対応する治療計画の表示とPDCAサイクルによる経時的運用機能の検討 製造:設計に基づいたシステム構築・連携 検証:腎専門医による検証 1-1-b 栄養士のためのPDCAサイクルを活用した個別化栄養指導のための機能 設計:病態に対応した栄養指導計画、食事内容評価とPDCAサイクルによる経時的運用機能の検討 製造:設計に基づいたシステム構築・連携 検証:栄養士による検証 1-1-c 看護師のためのPDCAサイクルを活用した個別化保健指導のための機能 設計　:食事管理機能を取り込むための連携方法を検討 製造　:設計に基づいたシステム構築・連携 検証　:管理栄養士による検証 2. 地域自治体での慢性腎臓病重症化予防事業をサポートする機能を構築する 重症化予防事業の効果的な運用に必要な情報整理及びその進捗状況(PDCAサイクル)の見える化機能を試作する。 要件定義:1で構築した機能をベースに行政の重症化予防チーム、かかりつけ医師、腎臓専門医、管理栄養士、保健師、看護師などの関係者の連携をサポートする機能を付加していること 設計　:ヒアリングに基づいた画面・機能設計 製造　:設計に基づいたシステム構築 検証　:ヒアリングを行った関係者での検証 3. 慢性腎臓病患者のためのセルフケアーのための機能 要件定義:患者自身が腎機能の現状や将来予測を容易に把握できること、検査結果や治療内容、さらにそれらの推移を容易に把握し理解をサポートする機能を有すること 設計　:ヒアリングに基づいた画面・機能設計 製造　:設計に基づいたシステム構築 検証　:患者自身による検証

4. 実施計画と予算計画

	実施項目	6月	7月	8月	9月	10月	～	3月	予算
事業化検証のスケジュールと経費	医療関係者向け研究開発*	試作開発							外注費 400,000円
	地域自治体向け研究開発					試作開発			外注費 400,000円
	CKD患者向け研究開発	試作開発							外注費 400,000円
	試作評価				試作評価			試作評価	
	腎虚血マーカー探索						測定・解析		500,000円
	ヒアリング・データ抽出								300,000円
									合計2,000,000円

5. 起業した場合の経営陣について（該当する□を■にする）

□自身で経営者になることを想定している

□第三者に経営を依頼する予定であり、依頼できる知人、想定している人物がいる

□第三者に経営を依頼する予定だが、依頼できる知人、想定している人物はいない

■経営を依頼できる信頼できる人物を紹介してほしい

■その他　自身も共同経営者として経営に参加したい

6. 大学の所見

本検証事業の活用と当該シーズの育成	・本事業化検証事業に対する大学としての支援について ギャップ支援に採択された場合は100万円の研究費を支援する予定である。（マッチングファンド） ・本検証事業をふまえて本シーズをどのように育成していくか 沖縄県ではIT産業の振興活性化に注力し、近年、ITと他産業の連携事業の支援が充実してきた。 本検証事業の成果を踏まえて県の実施するIT関連の支援事業の積極的に応募し事業化を推進する また、大学発ベンチャーを設立する場合には産学官連携部門・起業支援系にて支援を行う。

（別紙）

ファンドの所見

・本シーズを「ギャップ支援」ステージとした理由（具体的な課題） ・具体的課題に対して本検証事業でどのような取り組みが必要か ・本検証事業の成果をどのように事業化につないでいこうと考えているか

資料4

【提案1】九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金(ギャップ資金)の設置(案)

1. 目的
大学から提出されたシーズの事業性の検証等を支援し、大学発ベンチャーを速やかに創出する。

2. ギャップ資金
・大学、産業界及びファンドによる「事業化検証シーズ選考会議」が、事業化の可能性が高く「ギャップ支援ステージ」と評価したシーズに対し、事業化の検証等を行うための資金(ギャップ資金)を提供する。
・ギャップ資金は、試作品開発、市場調査、追加的研究等を行う資金とする。

3. 大学と産業界の拠出割合
「ギャップ資金」の大学と産業界の割合は50:50とする。

4. 産業界からの拠出額
振興会議のメンバー企業には、年間に50万円(1口)の拠出をお願いする。

5. ギャップ資金の総額
①5,100万円/年を目標とする
②内訳:

大学	2,550万円
振興会議企業メンバー	1,050万円
(一財)九州地域産業活性化センター	500万円
その他	1,000万円

6. 企業の拠出

①振興会議メンバー企業は、拠出するギャップ資金を投入するシーズを選択することができる。
②拠出企業には、大学から提出された「シーズ一覧」を提示する。
③拠出企業は、「シーズ一覧」の提示を受け関心があるシーズについて、「事業化検証シーズ選考会議」に参画できる。
④拠出企業は、「ギャップ支援ステージ」のシーズの中から投入を希望するシーズを事務局((一財)九州地域産業活性化センター)に連絡する。一つのシーズに対し、複数企業から希望があった場合は、大学、企業、ファンド、事務局で協議・調整する。
⑤拠出企業が投入する希望シーズがない場合は、事務局において資金提供いただくシーズを指定する。
⑥以上を実施するにあたって、大学が守秘義務を希望する場合、守秘義務契約を締結する。
⑦大学は拠出企業に対して検証事業を誠実に実施する以上の特段の義務を負うものではない。

7. 事業化検証計画書

大学は事業シーズの内容、事業化構想、検証の内容、スケジュール、検証に要する費用の内訳等を記載した「事業化検証計画書」を作成し、事務局に提出する。

8. 税務上の処理

①拠出企業は、事務局から指定のあった大学に対して寄附を行う。
②寄付を受けた大学は、拠出企業に対し寄附金受領証明書を発行する。
③法人が大学に寄附をする場合、法人税法上、寄附金の全額を損金算入できる。
④税務処理は、企業が確定申告書に、寄附金の損金算入に関する明細書に記載し、寄附先が発行する受領書の写しを添付し、税務署に提出する。

⑤私立大学に対する寄附の場合は、「受配者指定寄付金制度」により、日本私立学校振興・共済事業団に寄附金を預け入れ、寄付者が指定する私立学校に寄附金が配布される。これにより、寄附金支出額全額の損金算入ができる。

9. この、「九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金」の仕組みについては、2018年度から開始することとし（2017年度のシーズから適用）、5年後に見直しを行う。

【報告３】
平成３０年１１月２１日
総合企画戦略部 地域連携推進課　作成

平成30年11月22日以降 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について

※前回からの追記事項は赤字

組織名	主要事項
地域連携企画室	○地域連携推進機構の機能強化に向けた体制整備についての検討 （地域連携に関するワンストップ窓口機能の整理含む）
	○交流人材バンク設置に向けた検討（機能，体制，規則等）
	○目的別人材育成プログラムの開発・実施 ・地域子ども総合支援者養成講座(9/1(土)～12/2(日) 全10回 公開講座) ・地域の子どもを支援するインクルーシブ教育推進人材の育成プログラム(9/1(土)～12/15(土) 全15回 公開講座) ・琉大特色・地域創生科目Ⅸ(星空案内人養成講座)(9/29(土)～11/24(土)全9回 公開授業(共通教育等科目)) ・地域企業（自治体）お題解決プログラム(10/2(火)～1/29(火)全15回 公開授業(共通教育等科目)) ・キャリアデザインとジェンダーⅡ(10/4(木)～2/7(木)全15回 公開授業(共通教育等科目)) ・ブロックチェーンパイロットコース(11/3(土)～1/19(金) 全5回 公開講座) ・沖縄型医工連携基礎プログラム(11/10(土)～1/26(土) 全7回 公開講座) ・総合特別講義(ソーシャルキャピタル構築講座)(12/1(土)～2/9(土) 全15回 公開授業(共通教育等科目)) ・総合特別講義(クラウドファンディング実践講座)(12/8(土)～1/19(土) 全15回 公開授業(共通教育等科目)) ・地域円卓会議マネジメント講座(12/16(日)～2/10(日) 全10回 公開講座) ・IoTシステムセキュリティ実践講座(12/22(土)～2/2(土)or9(土) 全2回 公開講座) ・島嶼地域交流ファシリテーター養成講座(1/13(日)～2/17(日) 全10回 公開講座)
	○地域貢献活動に関する情報収集および広報の在り方についての検討
	○包括連携協定締結に向けた検討・調整 ・沖縄県中小企業家同友会　※調整中 ・日本郵便株式会社、株式会社ゆうちょ銀行及び株式会社かんぽ生命保険　※調整中
	○地域協働プロジェクト推進事業の遂行
	○琉球大学地域貢献事業フェア２０１９（仮）の企画・運営
	○与那国町・伊江村「離島教育環境改善事業」（内閣府補助金）の申請準備
	○南城市「情報通信技術利活用事業費補助金（地域IoT実装推進事業）」（総務省補助金） 実施に向けて南城市教育委員会との調整中（１２月から各小学校出前講座開始）
	~~○経済産業省「学びと社会の連携促進事業（「未来の教室」（学びの場）創出事業）」~~　※不採択
	○沖縄県「知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）」の遂行
産学官連携部門	○沖縄県「成長分野リーディングプロジェクト創出事業研究委託業務 （沖縄の有用生物資源を活用したヒト介入試験モデルの構築）」の遂行 第１回推進委員会　12/4(火) 15:00-17:00　於：地域創生総合研究棟 １階 産学官交流フロア
	○沖縄県「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」の遂行
	○沖縄県「イノベーション創出人材育成事業」の遂行
	○平成３０年度産学官金スタートアップ事業の遂行
	○平成３０年度琉球大学ブランド商品開発支援事業の遂行
生涯学習推進部門	○地域創生科目の全学必修化に向けた取組
	○公開講座・公開授業の講習料にかかる調整（継続）
	○平成３１年度公開講座・公開授業の実施に向けて講座・授業の募集
	○後期公開授業開始　１０月１日（月）～
	○ＣＡアドバンス他寄附講義「地域創生のためのデジタルマーケティング実践」（後学期金曜日３限）
	○ＪＴＡ寄附講義「沖縄の航空事業と地域振興２」（後学期木曜日３・４限）
	○現代沖縄地域論（後学期水曜日４限）

平成３０年度第６回教育研究評議会次第

平成３０年１０月２３日(火)
１４：００～，第一会議室（大学本部棟）

○議　題	資料番号
１　ISEP交換留学プログラムについて	議題１
２　プリンス・エドワード・アイランド大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について	議題２
３　ニューファンドランド・メモリアル大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について	議題３
４　国立台湾科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について	議題４
５　中原大学（台湾）との大学間交流協定の締結について	議題５
６　台北城市科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について	議題６
７　その他	
○報　告	
１　平成３０年度第２回経営協議会について	報告１
２　平成３０年度第６回全学教員人事委員会の審議結果について	報告２
３　全学的戦略ポスト再配分等の審査結果について	報告３
４　平成３０年１１月試行調査(プレテスト)の実施について	報告４
５　寄附講座「糖尿病・がん病態解析学講座」設置について	報告５
６　金武町と公立大学法人名桜大学及び国立大学法人琉球大学による地域における雇用創出・若者定着に係る協定締結について	報告６
７　ハワイ大学との協定締結30周年記念等シンポジウムの開催について	報告７
８　名誉博士の称号授与について	報告８

９	第５回琉球大学ホームカミングデーの開催について	報告９
１０	前回評議会における評議員の質問事項について	報告１０
１１	その他	

※ 今後の開催日程(予定)

平成３０年１１月２７日(火)　１４：００～
平成３０年１２月２５日(火)　１４：００～
平成３１年　１月２２日(火)　１４：００～

平成３０年度第６回教育研究評議会報

日　時　　平成３０年１０月２３日（火）　１４：００～１７：００

審議事項

（1）ＩＳＥＰ交換留学プログラムについて
　花城理事から、ＩＳＥＰ交換留学プログラムについて、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、ＩＳＥＰに加盟することが了承された。

（2）プリンス・エドワード・アイランド大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について
　花城理事から，琉球大学とプリンス・エドワード・アイランド大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

（3）ニューファンドランド・メモリアル大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について
　花城理事から，琉球大学とニューファンドランド・メモリアル大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、締結することが了承された。なお、協定（案）の一般条項の記載内容については、先方と調整のうえ必要に応じて修正することとし、修正内容については大城学長に一任された。

（4）国立台湾科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について
　花城理事から，琉球大学と国立台湾科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

（5）中原大学（台湾）との大学間交流協定の締結について
　花城理事から，琉球大学と中原大学（台湾）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

（6）台北城市科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について
　花城理事から，琉球大学と台北城市科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

報告事項

（1）平成３０年度第２回経営協議会について
　大城学長から，平成３０年度第２回経営協議会の審議結果等について報告があり，併せて学外委員からの意見について紹介があった。

（2）平成３０年度第６回全学教員人事委員会の審議結果について
　西田理事から，平成３０年度第６回全学教員人事委員会の審議結果について、資料に基づき報告があった。

（3）全学的戦略ポスト再配分等の審査結果について
　西田理事から，全学的戦略ポスト再配分等の審査結果について、資料に基づき報告があった。

（4）平成３０年１１月試行調査(プレテスト)の実施について
　渡名喜理事から、平成３０年１１月１０日及び１１日に実施予定の平成３０年１１月試行調査(プレテスト)について、資料に基づき報告があった。

（５）寄附講座「糖尿病・がん病態解析学講座」設置について
　西田理事から、寄附講座「糖尿病・がん病態解析学講座」の設置期間を１年延長することについて、資料に基づき報告があった。

（６）金武町と公立大学法人名桜大学及び国立大学法人琉球大学による地域における雇用創出・若者定着に係る協定締結について
　須加原理事から、金武町と公立大学法人名桜大学及び国立大学法人琉球大学による地域における雇用創出・若者定着に係る協定締結について、資料に基づき報告があった。

（７）ハワイ大学との協定締結30周年記念等シンポジウムの開催について
　大城学長及び花城理事から、平成３０年１０月１３日に開催されたハワイ大学との協定締結30周年記念等シンポジウムについて、資料に基づき報告があった。

（８）名誉博士の称号授与について
　花城理事から、学術文化の発展に寄与した５名の方へ名誉博士の称号を授与することについて、資料に基づき報告があった。

（９）第５回琉球大学ホームカミングデーの開催について
　花城理事から、平成３０年１０月２７日に開催予定の第５回琉球大学ホームカミングデーについて、資料に基づき案内があった。

（１０）前回評議会における評議員の質問事項について
　大城学長から、前回評議会における評議員の質問事項について、民間企業の採血等の医行為に関しては臨床検査医師による採血等が適切に行われていたこと、東京の医師の所属に関しては琉球大学とは記されていないことが確認できたため、調査委員会を立ち上げない旨報告があった。
　次いで、大城学長から、本件については、今後は教育研究評議会でなく、地域連携推進機構において須加原理事を中心に対応することとしたい旨案内があった。

（１１）その他
①前回評議会における平成３０年度年度計画予算の人件費に関する質問事項について
　福治理事から、前回評議会における稲岡評議員からの質問事項について、資料に基づき平成３０年度年度計画予算における人件費増加分の配分等の説明があった。

②ＦＤ研修の開催について
　渡名喜理事から、平成３０年１１月２７日に実施予定のグローバル教育支援機構主催のＦＤ研修について、資料に基づき案内があった。

平成３０年度第１４回　役員会議事次第

日　　時　平成３０年１０月２４日（水）１０：００～
場　　所　大学本部棟３階　第二会議室

	資料番号
○議　題	
１　平成３０年度教員ポスト再配分（重点改革推進枠）について	議題１
２　クロスアポイントメント制度実施に係る申出について	議題２
３　ISEP交換留学プログラムについて	議題３
４　琉球大学とニューファンドランド・メモリアル大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について	議題４
５　琉球大学と国立台湾科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について	議題５
６　琉球大学と中原大学（台湾）との大学間交流協定の締結について	議題６
７　琉球大学と台北城市科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について	議題７
８　その他	
○報　告	
１　平成３０年度医学部附属病院収支見込及び稼働実績について	報告１
２　ハワイ大学協定締結３０周年記念等シンポジウム等について	報告２
３　平成２９年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について	報告３
４　その他	

平成３０年度第１４回役員会議事要旨(案)

・日　時：平成３０年１０月２４日（水）１０：００～１１：３０
・場　所：大学本部棟第二会議室
・出席者：学長、福治理事、西田理事、渡名喜理事、花城理事、須加原理事

＊審議に先立ち、１０月１０日開催の役員会議事要旨案について確認があり、了承された。

１．議題

（１）平成３０年度教員ポスト再配分（重点改革推進枠）について
西田理事から、教員ポスト再配分（重点改革推進枠）の残枠をポイントで使用し､博物館(風樹館)の教務職員ポストを助教ポストに振り替えることについて、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（２）クロスアポイントメント制度実施に係る申出について
西田理事から、クロスアポイントメント制度に基づく、最初の事例として、国立大学法人千葉大学との間の協定締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（３）ISEP 交換留学プログラムについて
花城理事から、ISEP 交換留学プログラムについて、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、ISEP に加盟することが了承された。

（４）琉球大学とニューファンドランド・メモリアル大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について
花城理事から、琉球大学とニューファンドランド・メモリアル大学（カナダ）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、締結することが了承された。なお、協定（案）の一般条項の記載内容については、先方と調整のうえ必要に応じて修正することとし、修正内容については、学長に一任された。

（５）琉球大学と国立台湾科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について
花城理事から、琉球大学と国立台湾科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

（６）琉球大学と中原大学（台湾）との大学間交流協定の締結について
花城理事から、琉球大学と中原大学（台湾）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

（７）琉球大学と台北城市科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について
花城理事から、琉球大学と台北城市科技大学（台湾）との大学間交流協定の締結について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり締結することが了承された。

２．報告

（１）平成３０年度医学部附属病院収支見込及び稼働実績について
　須加原理事から、平成３０年度医学部附属病院収支見込及び稼働実績について、資料に基づき報告があった。

（２）ハワイ大学協定締結３０周年記念等シンポジウム等について
　花城理事から、ハワイ大学協定締結３０周年記念等シンポジウム等について、資料に基づき報告があった。

（３）平成２９年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について
　牛窪副理事から、予成２９年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について、資料に基づき報告があった。

平成３０年度第１５回　役員会議事次第

日　　時　平成３０年１１月１４日（水）１０：００～
場　　所　大学本部棟３階　第二会議室

	資料番号
○議　題	
１　附属学校給食施設設備更新事業及び給食業務の外注化について	議題１
２　目的積立金の取り崩しについて	議題２
３　国立大学法人琉球大学におけるネーミングライツに関する基本方針（案）について	議題３
４　JPN－COIL協議会への入会について	議題４
５　その他	
○報　告	
１　「琉球大学医学部及び同附属病院エネルギーサービスプロバイダー事業」における優先交渉権者の決定について	報告１
２　平成３０年度第３回経営協議会審議事項等（案）について	報告２
３　平成３０年度補正 施設整備予算について	報告３
４　その他	

平成３０年度第１５回役員会議事要旨(案)

・日　時：平成３０年１１月１４日（水）１０：００～１１：１０
・場　所：大学本部棟第二会議室
・出席者：学長、福治理事、西田理事、渡名喜理事、花城理事、須加原理事

＊審議に先立ち、１０月２４日開催の役員会議事要旨案について確認があり、了承された。

１．議題

（１）附属学校給食施設設備更新事業及び給食業務の外注化について

渡名喜理事から、附属学校給食施設設備更新事業及び給食業務の外注化について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、学校給食業務については、附属学校給食施設を利用して業務委託をすること（比較表Ｂ案）、学校給食施設については、既存給食事務室東側に２５０㎡程度を新築すること（別紙１のＣ案）が、それぞれ了承された。

（２）目的積立金の取り崩しについて

福治理事から、目的積立金について、その一部を取り崩し、附属小中学校給食施設設備更新事業及び大規模改修事業に伴う仮移転建物整備事業に充てることについて、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（３）国立大学法人琉球大学におけるネーミングライツに関する基本方針（案）について

福治理事から、国立大学法人琉球大学におけるネーミングライツに関する基本方針（案）について、資料に基づき提案説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（４）JPN－COIL協議会への入会について

花城理事から、JPN－COIL協議会について、資料に基づき説明があり、審議の結果、JPN－COIL協議会へ入会することが了承された。

２．報告

（１）「琉球大学医学部及び同附属病院エネルギーサービスプロバイダー事業」における優先交渉権者の決定について

福治理事から「琉球大学医学部及び同附属病院エネルギーサービスプロバイダー事業」について、琉球大学エネルギーサービスプロバイダー事業委員会において審議し、優先交渉権者を決定した旨、資料に基づき報告があった。

（２）平成３０年度第３回経営協議会審議事項等（案）について

福治理事から、１２月１３日に開催する平成３０年度第３回経営協議会審議事項等（案）について、資料に基づき報告があった。

（３）平成３０年度補正施設整備予算について

福治理事から、施設整備に関する平成３１年度概算要求事業のうち、「（千原）基幹・環境整備（ブロック塀対策）」について、平成３０年度補正予算として措置された旨、資料に基づき報告があった。

（４）その他

①「株式会社がちゆん」の業務停止に伴う対応について

福治理事から、本学ホームページに掲載されている「大学施設見学等についてのご案内」について、従来、「株式会社がちゆん」を通して実施されてきたところを、駐車場の確保や大学マップ等を配布しての自主見学の実施など、本学において可能な範囲で対応する旨の内容とし、その申込み・問合せ先を総務部総務課広報係に一本化した旨、資料に基づき報告があった。

②国立大学協会第２回通常総会について

大城学長から、国立大学協会第２回通常総会において、「国立大学の教育研究活性化を促進する人事給与マネジメント改革に関する基本的な考え方」について審議され、文部科学省へ提出するとともに公表することが承認されたこと、及び財政制度等審議会における財務省の見解に関する会長声明「国立大学法人制度の本旨に則った運営交付金の措置を」が決議され、公表することが承認された旨、報告があった。

地域連携推進機構運営会議 委員名簿

（平成３０年１０月１２日時点）

	所属・職名	氏名	区分	備考
1	機構長 （理事・副学長（地域連携・地域医療・キャンパス移転担当））	須加原（すがはら）　一博（かずひろ）	１号委員	議長
2	副機構長 兼 産学官連携部門長 （副学長・副理事（産学官連携担当））	屋（おく）　宏典（ひろすけ）	２号委員	議長代行
3	地域連携企画室長 （生涯学習推進部門　教授）	背戸（せと）　博史（ひろふみ）	３号委員	
4	生涯学習推進部門長 （人文社会学部　教授）	遠藤（えんどう）　光男（みつお）	４号委員	
5	産学官連携部門　准教授	玉城（たまき）　理（おさむ）	５号委員	専任教員
6	生涯学習推進部門　准教授	柴田（しばた）　聡史（さとし）	５号委員	専任教員
7	地域連携企画室　特命准教授	小島（こじま）　肇（はじめ）	６号委員	特命教員
8	地域連携企画室　特命准教授	島袋（しまぶくろ）　亮道（あきみち）	６号委員	特命教員
9	地域連携企画室　特命准教授	畑中（はたなか）　寛（ひろし）	６号委員	特命教員
10	地域連携企画室　特命准教授	宮里（みやざと）　大八（だいや）	６号委員	特命教員
11	産学官連携部門　特命准教授	下地（しもじ）　みさ子（こ）	６号委員	特命教員
12	生涯学習推進部門　特命准教授	空閑（くが）　睦子（むつこ）	６号委員	特命教員
13	産学官連携部門　教授 （熱帯生物圏研究センター）	新川（あらかわ）　武（たけし）	７号委員	併任教員 （任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日）
14	産学官連携部門　教授 （工学部）	瀬名波（せなは）　出（いずる）	７号委員	併任教員 （任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日）
15	総合企画戦略部長	新田（にった）　早苗（さなえ）	９号委員	
16	総合企画戦略部 地域連携推進課長	金城（きんじょう）　徹（とおる）	１０号委員	

平成３０年度第１０回 地域連携推進機構運営会議 座席表

平成３０年１１月２２日（金） １３：３０～１５：３０ （本部管理棟 ４階 第１会議室）

瀬名波　出
（産学官連携部門）

下地　みさ子
（産学官連携部門）

新川　武
（産学官連携部門）

柴田　聡史
（生涯学習推進部門）

島袋　亮道
（地域連携企画室）

小島　肇
（地域連携企画室）

玉城　理
（産学官連携部門）

屋　宏典
（副機構長 兼
産学官連携部門長）

須加原　一博
（機構長）

背戸　博史
（地域連携企画室長）

畑中　寛
（地域連携企画室）

金城　徹
（総合企画戦略部
地域連携推進課長）

宮里　大八
（地域連携企画室）

陪　席

陪　席

入　口

（欠席）

遠藤　光男 （生涯学習推進部門長）	空閑　睦子 （生涯学習推進部門）	新田　早苗 （総合企画戦略部長）